鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（87）

－一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－

中尾遺跡

（鹿児島県肝属郡吾平町）

２００５年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

遺跡全景（平成３年度）

遺跡全景（平成５年度）

中尾遺跡出土土器

甑形土器

黒色土器

序　　文

この報告書は，一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴って，鹿児島県教育庁文化課および鹿児島県立埋蔵文化財センターが平成３年度から平成７年度にかけて実施した中尾遺跡の発掘調査の記録です。

中尾遺跡は，鹿児島県の東部，大隅半島の肝属郡吾平町上名に所在します。

今回の調査では，縄文時代早期と縄文時代晩期，古墳時代など各時代の遺構・遺物が発見されました。

なかでも，古墳時代の竪穴住居跡群や溝状遺構，あるいはこれらの遺構に伴って出土した甑などの土器，鈴等の鉄製品は，南九州における古墳時代集落の様相を研究するうえで貴重な資料を提供したものと考えます。

本報告書が十分に活用され，大隅半島における考古学や歴史研究，埋蔵文化財の啓発・普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査を実施するにあたって御協力いただいた県土木部道路建設課，吾平町教育委員会をはじめ，関係各機関および地元の方々に深く感謝申しあげます。

平成17年３月

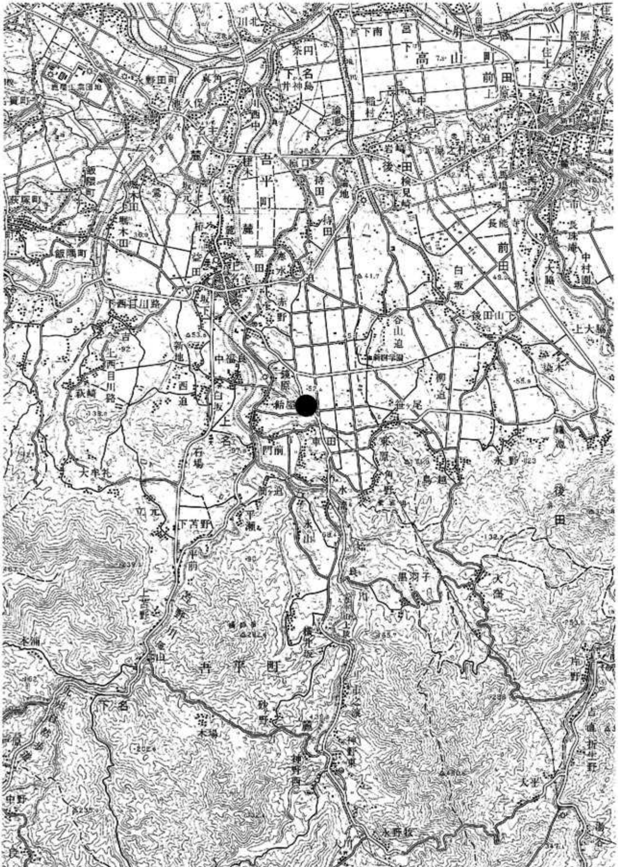
鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　木　原　俊　孝

報告書抄録

ふりがな	なかおいせき
書名	中尾遺跡
副書名	一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	I
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	87
編集者名	三垣恵一
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1 TEL0995-48-5811
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
なかおいせき 中尾遺跡	かごしまけんきもつきぐん 鹿児島県肝属郡 あつらへいちょうかんのみ 吾平町上名 あざなかお 字中尾	46485	75-47	31度 18分 37秒	130度 54分 46秒	19910723 ～ 19910809	確・本調査 3,600	一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業
						19910819 ～ 19920131		
						19930824 ～ 19931102	本調査 3,000	
						19940726 ～ 19940826	本調査 1,200	
						19950522 ～ 19950714	本調査 1,000 確認 60	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中尾遺跡	集落跡	縄文時代早期	集石 8基	吉田式土器・下剥峯式土器・石坂式土器・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・石皿・礫器・剥片・チップ	古墳時代の集落跡である。
		縄文時代前期		深浦式土器	
		縄文時代晩期	土坑 3基	刻目突帯文土器・孔列文土器・組織痕土器等	調査後の遺跡調査範囲については消滅。県道神野・折生野・吾平線を挟む部分については遺跡が残存する。
				磨製石斧・打製石斧・スクレイパー・磨石・敲石・石皿・剥片等	
		古墳時代	竪穴住居跡22軒	成川式土器・平瓶・砥石・敲石・鉄鏃・鉄製鎌・刀子・鉄製鈴等	
			溝状遺構 4条		
		古代	古道		



中尾遺跡位置図（1／50,000）

例　　言

1　本報告書は「一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業」に伴う中尾遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお，県教育委員会主体での中尾遺跡の発掘調査は，平成３年度および平成５年度から平成10年度の７か年にわたって実施したが，本報告は，平成３年度および平成５年度から平成７年度の４か年分の発掘成果をまとめたものである。

2　発掘調査は，鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所）から鹿児島県教育委員会が受託し，鹿児島県教育庁文化課（平成３年度）及び鹿児島県立埋蔵文化財センター（平成５～７年度）が担当した。当該年度分の整理作業および報告書作成は，平成15年度および平成16年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて実施した。

3　発掘調査については，鹿児島県土木部（鹿屋土木事務所道路建設課）や吾平町教育委員会の協力を得た。

4　遺物番号は通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号はすべて一致する。

5　挿図の縮尺は各図面に示した。

6　本書で用いたレベル数値はすべて海抜絶対高である。

7　遺物出土層を表すローマ数字は，遺跡の調査範囲が広く，地層の残存状況に違いが認められたこともあって年度ごとの分層に差違が生じたため，本文中では縄文時代早期遺物の出土層をⅦ層，縄文晩期～古墳時代遺物の出土層はⅣa層として統一した。日誌抄については調査時の表記，遺物観察表については注記したローマ数字をそのまま付した。

8　発掘調査における図面の作成及び写真の撮影は，鶴田静彦・大久保浩二・宮田栄二・湯之前尚が行い，中村耕治・倉元良文・堂込秀人・中村和美の協力を得た。

9　遺構実測図の浄書及び出土遺物の実測・浄書は整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。出土遺物の写真撮影は，鶴田静彦・横手浩二郎が担当した。

10　本書の執筆及び編集は三垣が担当した。

11　出土した遺物は，県立埋蔵文化財センターが一括して保管し，展示・活用する予定である。
なお，本遺跡の遺物注記の略号は「ナカオ」である。

凡　　例

1　遺　構

(1)　遺構図の縮尺は，基本的に縄文時代の集石が1/20・土坑1/40，古墳時代の竪穴住居跡1／40・溝状遺構は1／20，または1／40で掲載している。遺構位置図については縮尺をそれぞれに付した。

(2)　竪穴住居跡のうち，住居の全体規模が把握できるものについては，遺物出土状況や遺物分布，完掘状況をそれぞれ別途に図化し掲載している。部分的な検出にとどまった住居跡については遺物密度などによって作成する図を分けた。

(3)　竪穴住居跡の焼土域についてはその部分をスクリーントーンで表現している。

(4)　古墳時代の竪穴住居跡における出土遺物分布図の記号は，●が土器（須恵器を含む），○が石器，▲が微粒の炭化物，☆が鉄器を表す。●のみで表現している場合は，遺物の種別の区分を行わず，すべての遺物を表現していることを示す。
　また，住居跡によっては床着遺物やそれに近い状態で出土した遺物を中心に出土状況を図化している場合と，遺物分布図においては出土遺物をすべて図化しているものもあり，各住居跡によって遺物出土状況図と遺物分布図の遺物数は必ずしも一致しない場合がある。

(5)　遺物出土分布図の断面に投影されているドットは，出土した遺物をすべて見通している場合と断面線から半分を見通している場合がある。

(6)　住居跡の遺構番号については調査時に付されたものに準じた。

(7)　溝状遺構4号については，各年度ごとに各調査区において溝状遺構4～6号として調査したものが接続したため，1条として扱っている。

2　土　器

(1)　土器については，縄文時代・古墳時代ともに一部を除き基本的に1／3で掲載し，縮尺が異なる場合は，各図面に示した。

(2)　顔料が塗布された土器については，その部分についてスクリーントーンで表現している。

3　石　器

(1)　石器の縮尺は，基本的に打製石鏃・石匙・スクレイパーなどの剥片石器が3／4，磨製石

斧・打製石斧・礫器・磨敲石類を１／3，石皿は１／４で掲載している。

(2)　磨敲石類・石皿・砥石の使用面（磨面）は白抜き，礫面（自然面）をドット，明瞭な擦痕については実線で表現している。

(3)　石器観察表の計測値で（　）書きのものは，欠損品の残存部における数値である。

(4)　遺物観察表におけるの石材の略号や，石材の色調および利用されている器種については以下に示す表の通りである。

石材略号	名　称	色　調	器　種
Ａｎ	安山岩（サヌカイト）	灰色～暗灰色	打製石鏃・石匙
Ｏｂ	黒曜石	黒色（半透明）	打製石鏃
Ｃｃ	玉髄	淡黄色	スクレイパー
Ｃｈ	チャート	暗緑灰色～明黄褐色	打製石鏃
Ｓａ	砂岩	灰色・黄灰色・淡黄色	磨製石斧・敲石・楔形石器・石錘
Ｐａ	輝石安山岩	灰色	楔形石器・石皿
Ｐｇ	花崗岩	淡黄白色	磨敲石類
Ｊａ	蛇紋岩	緑灰色	磨製石斧

3　鉄製品

(1)　鉄製品についてはすべて１／２で掲載している。表面に残存するサビについては表現せず，鉄製品の外形からはみ出す場合にのみサビの輪郭を図化している。

序　　文
報告書抄録
例　　言
凡　　例

本文目次

第Ⅰ章　発掘調査の経過……1
　第1節　調査に至るまでの経過……1
　第2節　調査の組織……1
　第3節　調査の経過……3
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……9
　第1節　地理的環境……9
　第2節　歴史的環境……9
第Ⅲ章　発掘調査の概要……15
　第1節　発掘調査の方法……15
　第2節　発掘調査成果の概要……15
　第3節　遺跡の層位……17
第Ⅳ章　発掘調査の成果……23
　第1節　Ⅶ層の調査（縄文時代早期）……23
　　1　検出遺構……23
　　2　出土遺物……28
　　(1) 土　器……28
　　(2) 石　器……40
　第2節　Ⅳ層の調査(縄文時代中期～晩期)49
　　1　検出遺構……49
　　2　出土遺物……52
　　(1) 土　器……52
　　(2) 石　器……62
　第3節　Ⅳ層の調査（古墳時代）……67
　　1　検出遺構……67
　　(1) 竪穴住居跡……67
　　(2) 溝状遺構……115
　　2　出土遺物……123
第Ⅳ章　発掘調査のまとめ……145
　第1節　縄文時代……145
　第2節　古墳時代……145

挿図目次

第1図　中尾遺跡位置図
第2図　周辺遺跡位置図……12
第3図　中尾遺跡基本土層図……17
第4図　土層断面図1……18
第5図　土層断面図2……19
第6図　土層断面図3……20
第7図　調査区域全体図……21
第8図　調査用グリッド・確認調査トレンチ位置図1…21
第9図　調査用グリッド・確認調査トレンチ位置図2…22
第10図　Ⅷ層上面検出集石位置図……24
第11図　集石1……24
第12図　集石2……25
第13図　集石3号出土土器……25
第14図　集石3……26
第15図　集石4……27
第16図　Ⅶ層出土土器1……29
第17図　Ⅶ層出土土器2……30
第18図　Ⅶ層出土土器3……31
第19図　Ⅶ層出土土器4……33
第20図　Ⅶ層出土土器5……34
第21図　Ⅶ層出土土器6……35
第22図　Ⅶ層出土土器7……36
第23図　Ⅶ層出土土器8……37
第24図　Ⅶ層出土土器9……38
第25図　Ⅶ層出土土器10……39
第26図　Ⅶ層出土石器1……40
第27図　Ⅶ層出土石器2……41
第28図　Ⅶ層出土石器3……42
第29図　Ⅶ層出土石器4……43
第30図　Ⅶ層出土石器5……44
第31図　Ⅶ層出土石器6……45
第32図　Ⅶ層出土石器7……46
第33図　Ⅳb層上面検出土坑位置図……49
第34図　土坑1号……50
第35図　土坑1号出土遺物……50
第36図　組織痕土器……50
第37図　土坑2・3号……51

第38図　Ⅳ層出土土器１……53
第39図　Ⅳ層出土土器２……54
第40図　Ⅳ層出土土器３……55
第41図　Ⅳ層出土土器４……56
第42図　Ⅳ層出土土器５……57
第43図　Ⅳ層出土土器６……58
第44図　Ⅳ層出土土器７……60
第45図　Ⅳ層出土土器８……61
第46図　Ⅳ層出土石器１……62
第47図　Ⅳ層出土石器２……63
第48図　Ⅳ層出土石器３ほか……64
第49図　Ⅳ～Ⅵ層上面検出遺構位置図……68
第50図　竪穴住居跡１号遺物出土状況……69
第51図　竪穴住居跡１号遺物分布図……70
第52図　竪穴住居跡１号出土遺物１……70
第53図　竪穴住居跡１号出土遺物２……71
第54図　竪穴住居跡１号完掘状況……71
第55図　竪穴住居跡２号遺物分布図……72
第56図　竪穴住居跡２号出土遺物１……72
第57図　竪穴住居跡２号出土遺物２……73
第56図　竪穴住居跡２号完掘状況……74
第59図　竪穴住居跡３号遺物出土状況……75
第60図　竪穴住居跡３号出土遺物１……75
第61図　竪穴住居跡３号出土遺物２……76
第62図　竪穴住居跡４号遺物出土状況……76
第63図　竪穴住居跡４号遺物分布図……77
第64図　竪穴住居跡４号出土遺物１……77
第65図　竪穴住居跡４号出土遺物２……78
第66図　竪穴住居跡４号完掘状況……78
第67図　竪穴住居跡５号遺物出土状況……79
第68図　竪穴住居跡５号遺物分布図……80
第69図　竪穴住居跡５号出土遺物……80
第70図　竪穴住居跡５号完掘状況……81
第71図　竪穴住居跡６号遺物出土状況・出土遺物…82
第72図　竪穴住居跡７号完掘状況……83
第73図　竪穴住居跡８号遺物出土状況……83
第74図　竪穴住居跡８号遺物分布図……84
第75図　竪穴住居跡８号出土遺物１……84
第76図　竪穴住居跡８号出土遺物２……85
第77図　竪穴住居跡８号完掘状況……86
第78図　竪穴住居跡９号遺物出土状況……87
第79図　竪穴住居跡９号出土遺物１……88
第80図　竪穴住居跡９号出土遺物１……88
第81図　竪穴住居跡９号出土遺物２……89
第82図　竪穴住居跡９号完掘状況……90
第83図　竪穴住居跡10号遺物出土状況……92
第84図　竪穴住居跡10号出土遺物……93
第85図　竪穴住居跡11号遺物出土状況……94
第86図　竪穴住居跡11号出土遺物１……94
第87図　竪穴住居跡11号出土遺物２……96
第88図　竪穴住居跡13号遺物出土状況……97
第89図　竪穴住居跡13号出土遺物……98
第90図　竪穴住居跡14号遺物出土状況……99
第91図　竪穴住居跡14号出土遺物……100
第92図　竪穴住居跡16号遺物出土状況……101
第93図　竪穴住居跡16号出土遺物……101
第94図　竪穴住居跡17号遺物出土状況……102
第95図　竪穴住居跡17号出土遺物……103
第96図　竪穴住居跡18号遺物出土状況……104
第97図　竪穴住居跡18号遺物分布図……105
第98図　竪穴住居跡18号出土遺物……106
第99図　竪穴住居跡18号完掘状況……107
第100図　竪穴住居跡19号遺物分布図……108
第101図　竪穴住居跡19号出土遺物……109
第102図　竪穴住居跡19号完掘状況……110
第103図　竪穴住居跡21号遺物分布図・完掘状況…111
第104図　竪穴住居跡21号出土遺物……111
第105図　竪穴住居跡22号遺物分布図・出土遺物1…112
第106図　竪穴住居跡22号出土遺物２……112
第107図　竪穴住居跡22号出土遺物２……113
第108図　竪穴住居跡22号完掘状況……114
第109図　竪穴住居跡23号遺物出土状況……115
第110図　竪穴住居跡23号出土遺物……116
第111図　溝状遺構１号……118
第112図　溝状遺構２・３号……119
第113図　溝状遺構１・２・３号出土遺物…120
第114図　溝状遺構４号・古道位置図……122
第115図　溝状遺構４号遺物出土状況……122
第116図　溝状遺構４号出土遺物１……125
第117図　溝状遺構４号出土遺物２……126

第118図　溝状遺構４号出土遺物３……127
第119図　溝状遺構４号出土遺物４……128
第120図　溝状遺構４号出土遺物５……129
第121図　溝状遺構４号出土遺物６……130
第122図　溝状遺構４号出土遺物７……131
第123図　溝状遺構４号出土遺物８……132
第124図　Ⅳ層出土土器１……133
第125図　Ⅳ層出土土器２……134
第126図　Ⅳ層出土土器３……135
第127図　Ⅳ層出土土器４……136
第128図　Ⅳ層出土土器５……137
第129図　Ⅳ層出土土器６……138
第130図　Ⅳ層出土土器７ほか……139

表目次

第１表　一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧１
第２表　一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧２
第３表　周辺遺跡地名表(1)……13
第４表　周辺遺跡地名表(2)……14
第５表　確認調査の概要……16
第６表　集石３号出土土器観察表……25
第７表　遺構観察表(集石)……27
第８表　Ⅶ層出土土器観察表１……47
第９表　Ⅶ層出土土器観察表２……48
第10表　Ⅶ層出土石器観察表……48
第11表　遺構観察表（土坑）……51
第12表　土坑１号出土遺物観察表……50
第13表　Ⅳ層出土土器(縄文中期～晩期)観察表1…65
第14表　Ⅳ層出土土器(縄文晩期)観察表２…66
第15表　Ⅳ層出土石器(縄文後期～古墳)観察表…66
第16表　遺構内出土遺物観察表１……140
第17表　遺構内出土遺物観察表２……141
第18表　遺構内出土遺物観察表３……142
第19表　Ⅳ層出土遺物（古墳）観察表１…143
第20表　Ⅳ層出土遺物(古墳ほか)観察表2…144

図版目次

図版１　遺跡全景（平成３年度）……149
図版２　遺跡全景（平成５年度）……150
図版３　遺跡全景（平成７年度）……151
図版４　①･②Ⅶ層(縄文早期)遺物出土状況…152
③集石１号
④集石１号（本体部）
⑤集石１号（かきだし部）
図版５　①集石７号……153
②集石３号断面
③集石２号
図版６　Ⅶ層出土土器１（Ⅰ・Ⅱ類）……154
図版７　Ⅶ層出土土器２（Ⅲ・Ⅳ類）……155
図版８　Ⅶ層出土土器３（Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ類）…156
図版９　Ⅶ層出土土器４（Ⅷ類）……157
図版10　Ⅶ層出土土器５（底部）……158
図版11　Ⅶ層出土土器６（Ⅸ・Ⅹ類ほか）…159
図版12　Ⅶ層出土石器１……160
図版13　Ⅶ層出土石器２……161
図版14　Ⅶ層出土石器３……162
図版15　Ⅳ層(縄文時代晩期)遺物出土状況…163
図版16　①土坑１号上面遺物出土状況……164
②土坑１号石鏃出土状況
③土坑１号完掘状況
図版17　Ⅳ層出土土器１……165
図版18　Ⅳ層出土土器２……166
図版19　Ⅳ層出土土器３……167
図版20　Ⅳ層出土土器４……168
図版21　Ⅳ層出土土器５……169
図版22　Ⅳ層出土石器１……170
図版23　Ⅳ層出土土器２ほか……171
図版24　竪穴住居跡群……172
①平成３年度
②平成５年度
③平成７年度
図版25　①遺跡近景(北から)……173
②遺跡近景(南から)
図版26　①・②竪穴住居跡１号……174

図版27 ①・②竪穴住居跡１号遺物出土状況…175
図版28 ①竪穴住居跡２号 ……176
②同２号遺物出土状況
図版29 竪穴住居跡２号遺物出土状況 ……177
図版30 ①竪穴住居跡３号 ……178
②同４号鉄器出土状況
③同３号遺物出土遺物出土状況
図版31 ①竪穴住居跡４号・同４号断面 …179
図版32 ①竪穴住居跡５号 ……180
②同５号遺物出土状況（土坑内）
図版33 ①竪穴住居跡６号 ……181
②同６号断面
③同６号遺物出土状況（土坑内）
図版34 ①竪穴住居跡７号 ……182
②竪穴住居跡８号
③同８号断面
図版35 ①竪穴住居跡９号 ……183
②竪穴住居跡９号（奥）・10号（手前）
図版36 ①竪穴住居跡10号 ……184
②同10号遺物出土状況（甑）
③同10号遺物出土状況
図版37 ①竪穴住居跡13号（左）……185
②竪穴住居跡９(左奥)・11(右)・10号(左)
図版38 ①竪穴住居跡13号 ……186
②竪穴住居跡14号（手前）
図版39 ①幻の15号遺物出土状況 ……187
②竪穴住居跡16号（奥）・17号（手前）
③同16号
④同16号須恵器出土状況
⑤同16号遺物出土状況
図版40 ①竪穴住居跡17号 ……188
②同17号遺物出土状況
図版41 ①竪穴住居跡17号炭化物出土状況…189
②同17号土層断面
図版42 竪穴住居跡18号と溝状遺構４号 …190
図版43 ①竪穴住居跡18号(南から) ……191
②同18号（北から）
図版44 ①・②竪穴住居跡18号遺物出土状況…192
③・④竪穴住居跡18号中央土坑
⑤竪穴住居跡18号完掘状況
図版45 ①竪穴住居跡19号 ……193
②同19号完掘状況
図版46 ①竪穴住居跡21号 ……194
②同21号遺物出土状況
③同21号完掘状況
図版47 ①竪穴住居跡22号検出状況 ……195
②・③同22号遺物出土状況
図版48 ①竪穴住居跡22号遺物出土状況 …196
②同22号遺物出土状況(土坑内)
③同22号完掘状況
図版49 ①竪穴住居跡23号検出状況 ……197
図版50 溝状遺構１号 ……198
図版51 ①溝状遺構２号・②同２号断面 …199
図版52 ①溝状遺構３号・溝状遺構検出風景…200
図版53 溝状遺構４号 ……201
図版54 ①・②溝状遺構４号遺物出土状況
③同４号鉄製鈴出土状況 ……202
図版55 ①・②・③溝状遺構４号遺物出土状況…203
図版56 ①・②古道検出状況 ……204
図版57 竪穴住居跡１・２号出土土器 ……205
図版58 竪穴住居２・４・５・８号出土土器…206
図版59 竪穴十強跡８・９・11号出土土器…207
図版60 竪穴住居跡10・13・16号出土土器…208
図版61 竪穴住居跡18・19・21号出土土器…209
図版62 竪穴住居跡出土土器 ……210
図版63 竪穴住居跡出土石器 ……211
図版64 溝状遺構1・2・3・4号出土土器 …212
図版65 溝状遺構４号出土土器 ……213
図版66 溝状遺構４号出土土器 ……214
図版67 溝状遺構４号出土土器 ……215
図版68 溝状遺構出土遺物ほか ……216
図版69 Ⅳ層出土遺物１ ……217
図版70 Ⅳ層出土遺物２ ……218
図版71 Ⅳ層出土遺物３ほか ……219
図版72 鉄製品①鉄製鈴・②鉄製鈴X線写真…220
③鉄鏃・刀子・鉄鎌ほか

第Ⅰ章　発掘調査の経過

第1節　調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無およびその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき，鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）は，「一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業」の計画に基づいて，肝属郡吾平町上名地区に計画した道路改良工事に先立って，対象地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課（組織改革により平成8年度より文化財課と改称。）に照会した。

この結果，事業区間内には周知の遺跡である中尾遺跡が所在することが判明し，平成3年度に県道拡幅部分について緊急発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は県文化課が担当した。その結果，遺跡が縄文時代早期から古墳時代にかけての複合遺跡であることや遺跡の範囲が現県道の下部までひろがることが確認された。

そこで，平成4年度に鹿児島県土木部・県文化課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，埋文センター）の三者で再度協議を行い，当事業区間内においては現状保存や設計変更が不可能なことから，平成5年度以降，計画的かつ継続して発掘調査（確認・本調査）を実施し，発掘調査は埋文センターが担当することとした。

県教育委員会全体の調査は，平成3年度，平成5年度から平成10年度の計7か年にわたって実施した。調査総面積は計8，860㎡である。本調査終了後，平成3年度および平成5年から平成7年度の調査成果については，平成15年度および平成16年度に埋文センターにおいて整理作業・報告書作成作業を行った。

第2節　調査の組織

確認・本調査（平成3年度）

起因事業主体	鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）		
調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	大田　務
調査企画調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	文化財課長	向山勝貞
調査企画者	〃	文化財課長補佐	濱松　厳
	〃	主任文化財研究員	
		兼埋蔵文化財係長	吉元正幸
調査担当者	〃	文化財研究員	鶴田静彦
	〃	文化財研究員	湯之前　尚
事務担当者	〃	主幹兼企画助成係長	濱崎琢也
	〃	主査	枇杷雄二
	〃	主事	新屋敷由美子

確認・本調査（平成５年度～平成７年度）

起因事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）		
調査主体者	鹿児島県教育委員会		
調査企画調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	県立埋蔵文化財センター	所長	大久保 忠 昭（H５）
	〃		内村 正 弘（H６～７）
調査企画者	〃	次長兼総務課長	水口 俊 雄（H５）
	〃		川原 信 義（H６～７）
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝 洋（H５～７）
	〃	主任文化財主事	新東 晃 一（H７）
調査担当者	〃	文化財研究員	鶴田 静 彦（H５～６）
	〃	〃	大久保 浩 二（H５～６）
	〃	文化財主事	宮田 栄 二（H７）
	〃	文化財研究員	湯之前 尚（H７）
事務担当者	〃	主査	成尾 雅 明（H６～７）
	〃	主事	中村 和 代（H６）
	〃	〃	追立 ひとみ（H７）
調査指導者	鹿児島県考古学会	会長	河口 貞 徳（H５～７）

整理・報告書作成（平成15・16年度）

起因事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）		
作成主体者	鹿児島県教育委員会		
企画調整	鹿児島県教育庁文化課		
作成責任者	県立埋蔵文化財センター	所長	木原 俊 孝（H15～16）
作成企画者	〃	次長兼総務課長	田中 文 雄（H15）
	〃	〃	賞雅 彰（H16）
	〃	調査課長	新東 晃 一（H15～16）
	〃	調査課長補佐	立神 次 郎（H15～16）
	〃	主任文化財主事兼第一調査係長	池畑 耕 一（H15～16）
	〃	主任文化財主事	中村 耕 治（H15～16）
作成担当者	〃	主任文化財主事兼第一調査係長	池畑 耕 一（H16）
	〃	文化財主事	宗岡 克 英（H15）
	〃	〃	三垣 恵 一（H16）
	〃	文化財研究員	上床 真（H15）
事務担当者	〃	総務係長	平野 浩 二（H15～16）
	〃	主査	福山 恵一郎（H15～16）
企画委員	〃	主任文化財主事	中村 耕 治（H16）

企　画　委　員　県立埋蔵文化財センター　　文化財主事　　鵜　田　静　彦（H16）
報告書作成検討委員会　平成16年12月24日　　所長ほか　7名
報告書作成指導委員会　平成16年12月27日　　課長ほか　8名

第3節　調査の経過

発掘調査は，平成3年7月23日～8月9日，同8月19日～平成4年1月31日，平成5年8月24日～11月2日，平成6年7月26日～8月26日，平成7年5月22日～7月14日にかけて実施した。以下，年度ごとに日誌抄をもって調査の経過を略述する。

平成3年度

○平成3年7月23～7月26日（金）
　5～8トレンチ配置図作成。
○7月29日（月）～8月2日（金）
　1～3トレンチ配置図作成。1トレンチのⅡ・Ⅲ層出土遺物平板実測（№1～20）。2トレンチ検出遺構平板実測。
○8月5日（月）～8月9日（金）
　5・6トレンチのⅢ層出土遺物平板実測（№21～66）
○8月19日（月）～8月23日（金）
　N－40～41区のⅢ層出土遺物平板実測（№67～233）
○8月26日（月）～8月30日（金）
　N－39～41区のⅢa層出土遺物平板実測（№234～410）。溝状遺構1・2の平面実測。
○9月2日（月）～9月6日（金）
　M～N－32～39区のⅢ層出土遺物平板実測（№411～882）。
○9月9日（月）～9月13日（金）
　M－36～38区のⅢ層出土遺物平板実測（№883～924）
○9月16日（月）～9月20日（金）
　M－34～35区のⅢ層出土遺物平板実測（№925～1063）。M－37～38区の古道実測。
　9月19日台風接近により作業中止。
○9月23日（月）～9月27日（金）
　瀬戸口望氏来跡（25日）。
○9月30日（月）～10月4日（金）
　M－30～35，M～N－37～41区のⅢ層出土遺物平板実測（№1064～1327）。
　河口貞徳先生（鹿児島県考古学会会長）現地指導（9月30日～10月1日）。
　中尾Ⅱ遺跡調査開始。（10月3日～10月18日）
○10月7日（月）～10月11日（金）
　M－28～29区のⅢ層出土遺物平板実測（№1328～1397）
○10月14日（月）～10月18日（金）
　M－27・N－38～41区のⅢ層出土遺物平板実測（№1398～1477）。12～13トレンチ配置図作成。
　N－39区のⅢ層土器出土状況実測。

○10月21日（月）～10月25日（金）

N－39区のⅣ層土器出土状況実測。

○10月28日（月）～11月１日（金）

M－30区のⅥ層出土遺物平板実測（№1478～1489）。M－30区の土層断面実測。

瀬戸口望氏来跡。（１日）

○11月５日（火）～11月８日（金）

M～N－25～29区のⅣ・Ⅵ層出土遺物平板実測（№1490～1662）。Ⅵ層上面コンタ図作成。

○11月11日（月）～11月15日（金）

M－28～30区のⅥ層遺物出土状況（№1663～1667）およびコンタ図平板実測。

○11月18日（月）～11月22日（金）

M－25区の土層断面実測。

○11月25日（月）～11月29日（金）

M－27～28区の土坑１・２平面実測。M～N－24～27区のⅥ層出土遺物平板実測（№1594～1715）。集石７の平断面実測。N－25区の吉田武土器出土状況実測。

○12月２日（月）～12月６日（金）

集石６の平断面実測。M～N－23～24区のⅥ層出土遺物平板実測（№1716～1788）。

○12月９日（月）～12月13日（金）

M－22～23区のⅦ層および溝状遺構１の出土遺物平板実測（№1808～1818）。M－22～24区の土層断面実測。古道平面実測。

○12月16日（月）～12月20日（金）

古道の検出状況の平面実測。集石１の平断面実測。

○１月６日（月）～１月10日（金）

竪穴住居跡7，溝状遺構１・２・３，集石３の平断面実測。古道の平面実測。遺構配置図作成。

○１月13日（月）～１月17日（金）

溝状遺構４・古道検出状況実測。

○１月20日（月）～１月24日（金）

アカホヤ火山灰層上面検出遺構配置およびコンタ図作成。溝状遺構３・４の断面実測。溝内遺物出土状況実測。竪穴住居跡８・17の平断面実測。河口貞徳先生（鹿児島県考古学会会長）現地指導（22～23日）。

○１月27日（月）～１月31日（金）

竪穴住居跡12・16の平断面実測，古道の平面および遺物出土状況実測。瀬戸内望氏来跡（27日）。

平成５年度

○８月24日（火）～８月27日（金）

発掘機材の搬入，調査開始。O～P－13～14区の重機による表土除去，精査。池田火山灰層の腐植土層から古墳時代，縄文時代中期の土器出土。Ⅳa層まで掘り下げ。

○８月30日（月）～９月２日（木）

O～P－13～14区のⅢ層掘り下げ，出土遺物平板実測。O－14～15区の土層断面実測。台風対策

実施。

○９月６日（月）～９月10日（金）

台風通過後の復旧作業。鹿屋土木事務所・肝属土木事務所道路建設課と協議後，仮設道路の建設を実施。Ｔ～Ｕ－３，Ｓ～Ｕ－４，Ｓ～Ｔ－５区のアスファルト・砕石除去後，Ⅳａ層まで掘り下げ。竪穴住居跡の平面プラン１基を確認，鉄鏃出土。

○９月13日（月）～９月17日（金）

Ｒ－７区のアスファルト・砕石除去。Ｕ－４区の溝状遺構，竪穴住居跡の平面プランの検出作業。Ｒ～Ｓ－７～８区のⅢ層の掘り下げ。

○９月20日（月）～９月22日（水）

Ｑ～Ｒ－８区の遺構検出作業。排水路及び客土の除去作業。雨水の流入防止対策実施。

○９月27日（月）～10月１日（金）

Ｓ～Ｖ－４～５区の精査，遺構検出作業。竪穴住居跡の隅丸方形プラン，溝状遺構を検出。遺構配置図作成，写真撮影。池田パミス層上面のコンタ図作成。溝状遺構２・４の掘り下げ，実測。溝状遺構４から鉄製鈴，竪穴住居跡８から須恵器が出土。古道２～４の平面実測。

○10月４日（月）

Ｑ～Ｐ－９～10区の重機による表土剥ぎ。溝状遺構３・４の平断面，池田パミス層上面のコンタ図・遺構配置図作成。溝状遺構４の土器集中部断面実測。

○10月８日（金）

Ｑ～Ｐ－９～10区および遺構の清掃。溝状遺構３の平断面実測。

○10月11日（月）～10月15日（金）

溝状遺構４の掘り下げ，Ｐ～Ｑ－10区の重機による表土剥ぎ。河口貞徳先生（鹿児島県考古学会会長）現地指導（12～13日）。竪穴住居跡18の遺物出土状況実測。溝状遺構２の断面実測。

○10月18日（月）～10月22日（金）

溝状遺構４の掘り下げ，Ｐ～Ｑ－９～10区の重機による表土剥ぎ。溝状遺構４の平面，遺物出土状況実測。Ｎ～Ｏ－13～14区，Ｏ～Ｑ－10～12区の池田パミス層上面コンタ図作成。航空写真撮影（22日）。

○10月25日（月）～11月２日（火）

竪穴住居跡18の平面実測。発掘調査終了

平成６年度

○平成６年７月26日（火）～７月29日（金）

発掘調査開始。重機による表土剥ぎおよび間層除去。Ｎ－21～22区のⅦ層掘り下げ。貝殻条痕文系土器・打製石鏃等出土。

○８月２日（火）～８月５日（金）

Ｎ－22～27区のⅦ層掘り下げ，遺物出土状況写真撮影，平板実測（No.１～124）。Ｎ－31区までⅦ層上面の検出作業。

○８月８日（月）～８月11日（木）

Ｎ－26区の集石２の写真撮影，平断面実測。Ｎ－30区までⅦ層の検出作業。Ｎ－29～30区の掘り

下げ，出土遺物の取り上げ（№266～541）。

○8月16日（火）～8月19日（金）

N－22～24，29～31区のⅦb層上面まで掘り下げ，コンタ図作成。重機によるN－28～35区のアスファルト除去およびⅢ層面の清掃。N－27～28区のⅦb層出土遺物平板実測（№542～555）。

○8月22日（月）～8月26日（金）

N－33～35区の遺構検出作業。N－36・38区にトレンチ設定，N－36区から竪穴住居跡プラン検出。N－26・27区のⅦb層出土遺物平板実測（№573～633）。集石4の平断面実測。発掘調査終了。

平成7年度

○平成7年5月22日（月）～5月26日（金）

確認調査の開始及び全面調査の準備。1～5トレンチを設定，掘り下げ開始。

1トレンチから竪穴住居跡，2トレンチ溝，3・5トレンチから土器・石器出土。1～3トレンチ写真撮影，平板実測（№1～129，1175～1194）。

○5月30日（火）～6月2日（金）

1～5BTの掘り下げ，土器・石器出土。写真撮影，平板実測（Ⅲa層№130～164，Ⅵ層144～182）。1トレンチの竪穴住居跡写真撮影。重機による表土剥ぎ。

○6月5日（月）～6月9日（金）

1・2・4トレンチの掘り下げ。M～N－36～37区の掘り下げ，前回の住居跡確認，旧トレンチ跡の掘り下げ。旧道路部分の掘り下げ。

○6月12日（月）～6月16日（金）

M～N－36～37区のⅢ層掘り下げ。M～N－37～40区のⅢ層出土遺物平板実測（№165～620）。旧道路部分の掘り下げ。竪穴住居跡19の出土遺物取り上げ。

○6月19日（月）～6月22日（木）

竪穴住居跡2の掘り下げ，竪穴住居跡19の出土遺物の取り上げ，断面実測。竪穴住居跡23のプラン検出。M～N－39～41区のⅢa層出土遺物の平板実測（№621～977）。

○6月26日（月）～6月30日（金）

竪穴住居跡2・19・22・23の掘り下げ，出土遺物平板実測。竪穴住居跡21検出，写真撮影。1・2トレンチ出土遺物の平板実測（№978～1079）。航空写真撮影（30日）。竪穴住居跡2・22・23の実測。

○7月3日（月）～7月7日（金）

M～N－40～41区の重機による間層除去後，Ⅵ～Ⅶ層の掘り下げ。竪穴住居後23の写真撮影。竪穴住居後2・19の平面実測，掘り下げ。竪穴住居後21・22の遺物出土状況実測（№1395～1401）。1トレンチ検出の竪穴住居跡実測。N－40区のⅥ層出土遺物平板実測（№1402～1421）。集石8の平断面実測。

○7月10日（月）～7月14日（金）

M～N－40～41区のⅥ層の掘り下げ。竪穴住居跡2・21の平板実測。竪穴住居跡1の床面ピット検出。1・3・5トレンチの土層断面実測。河口真徳先生（鹿児島県考古学会）・本田道輝先生（鹿児島大学法文学部）来跡（12日）。トレンチの埋め戻し。発掘調査終了。

第１表　一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧１

遺跡名	年度	調査期間	調査面積	調査担当者	時代	遺構	遺物	
中尾遺跡	H 3	7／23～8／9 8／19～1／31	確認調査 本調査 3,600㎡	鶴田　静彦 湯之前　尚	縄文早期 縄文前期 縄文晩期 古墳 古代	集石８基 土坑３基 竪穴住居跡22軒 溝状遺構４条 古道	吉田式土器・下剥峯式土器・窓ノ神式土器 深浦式土器 黒川式土器・夜臼式土器・組織槍土器・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・成川式土器・打製石鏃・石斧・磨敲石・砥石・石皿・鉄製鈴	県教育委員会主体
	H 5	8／24～11／2	本調査 3,000㎡	鶴田　静彦 大久保浩二				
	H 6	7／26～8／26	本調査 1,200㎡	鶴田　静彦 大久保浩二				
	H 7	5／22～7／14	確認調査 60㎡ 本調査 1,000㎡	宮田　栄二 湯之前　尚				
	H 8	8／19～10／18 11／25～11／29	確認調査 280㎡ 本調査 1,200㎡	長野　篤一 脇岡　隆夫 中原　一成	縄文早期 古墳	集石１基 地下式横穴墓２基 竪穴住居跡５軒 土壙１基	土器・石鏃・石斧 鉄製太刀・鉄製刀子 成川式土器	
	H 9	4／21～7／11	確認調査 45㎡ 本調査 1,600㎡	中村　耕治 安藤　浩 黒川　忠広	縄文早期 縄文前期 縄文晩期 古墳 古代	集石12基 集石２基 溝状遺構 土坑	下剥峯式土器・桑ノ丸式土器・窓ノ神式土器・石鏃・異形石器・石斧・石斧未製品・礫器・磨石・石皿 曽畑式土器 刻目突帯文土器・組織痕土器 成川式土器	
	H 10	11／9～12／15	本調査 1,280㎡	鶴田　静彦 大久保浩二	縄文早期 縄文晩期 弥生中期 古墳	土坑	土器・石鏃 刻目突帯文土器・石斧・スクレイパー 土器 成川式土器	
	H 16	5／11～9／9	本調査 1,400㎡	山下　博文	弥生 古墳	竪穴住居跡１軒 掘立柱建物跡 竪穴住居跡１軒 地下式横穴墓１基	山ノ口式土器・石庖丁 成川式土器 鉄剣・鉄刀	吾平町教委

※中尾遺跡については，検出した遺構が一部重複するため，平成３年度から平成７年度分を一括して掲載した。

第２表　一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧２

遺跡名	年度	調査期間	調査面積	調査担当者	時　代	遺　構	遺　物	
四方高遺跡	H12	8／7～10／27	確認調査 70㎡ 本調査 3,400㎡	鶴田　静彦 西村　喜一	縄文早期 弥生 古墳	集石８基	前平式土器・石坂式土器・石鏃・打製石斧・礫器・磨石・石皿 甕形土器 成川式土器	県教育委員会主体
和田遺跡			確認調査 40㎡		－	－	－	
	H14	7月 10月～ 1月～	確認調査 本調査 3,200㎡	川崎　重治 山下　博文	縄文 弥生	連穴土坑２基 集石20基	加栗山式土器・吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・磨製石鏃・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石皿・砥石	吾平町教育委員会主体
和田Ⅱ遺跡	H15	4／5～7／14	本調査 530㎡	川崎　重治 山下　博文	縄文早期 弥生 古墳	集石８基	加栗山式土器・吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・辻タイプ・中原式土器・磨製石鏃・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨石・敲石・凹石・石皿・軽石製品 山ノ口式土器 成川式土器	

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

中尾遺跡は，鹿児島県肝属郡吾平町上名字中尾に所在する。

遺跡の所在する吾平町は，鹿児島県の東半を占める大隅半島のほぼ中央にあり，県庁所在地の鹿児島市からは鹿児島湾を挟んで南東に約40㎞の距離に位置する。行政区分上では，東を高山町，北西を鹿屋市，南西を大根占町と境を接しており，総面積は59.15㎢の町である。

吾平町は，地勢的には南部の国見山系（肝属山地），中部のシラス台地，北部の河川流域に沿って形成された河岸段丘および沖積地に区分される。南部一帯は山林，台地上には畑，河川流域には水田地帯がひろがっている。

地質的には，南部山地に黒雲母花崗岩，西部山地に輝石安山岩・玄武岩などの火山岩，その中間地帯には砂岩・頁岩交互層などの堆積岩が分布する。北部一帯は姶良カルデラを噴出源とするいわゆるシラス層からなり，姶良川流域には粘土層や一部に泥岩などが分布する。

中尾遺跡は，国見山系の支脈（福師岳286.2ｍなど)の北麓，東原台地とよばれるシラス台地上および姶良川の開析によって形成された河岸段丘縁辺部に立地する。標高は約40～55ｍである。吾平町役場からは南へ約1.5㎞の距離にあり，遺跡の西約250ｍほどを肝属川の支流の一つである姶良川が北流している。

第２節　歴史的環境

吾平町における遺跡の分布状況は，南部の山地帯には少なく，中部のシラス台地から北部の河岸段丘上および沖積地にかけて遺跡が集中する傾向がうかがえる。

このような地勢的な特徴のなかで，吾平町における考古学の成果で特筆すべきものとして，古墳時代における地下式横穴群の存在がある。本町を含む大隅地域における地下式横穴は，志布志湾沿岸および肝属川流域を中心に分布しているが，現在までに23遺跡から総数90基以上が把握されている。吾平町では天神原地下式横穴群・宮ノ上地下式横穴群・堀木田原地下式横穴・中尾地下式横穴群の４遺跡で少なくとも26基が確認されている。今後の発掘調査によってさらに増加する可能性が高い。これらの発掘成果は，南九州の古墳時代，なかでも墓制の研究においては欠かせないものとなっている。以下，吾平町内における考古学成果について概観する。

（１）宮ノ上地下式横穴墓群

肝属川の支流，姶良川などの周辺にひろがる平野を望む標高約40ｍの台地上に位置する。昭和24年から昭和61年にかけて計６回の発掘調査が実施されている。15基の存在が確認され，そのうち10基の調査が行われている。現在は吾平小学校の校庭となっている。副葬品として土師器や鉄剣・片刃箭式鉄鏃・鉄鉾・刀子などが出土している。

（２）天神原地下式横穴墓群

肝属川に面した標高約25ｍの台地縁辺部にある。吾平町と高山町にまたがって存在横穴墓群であ

る。これまでに4基の調査が行われ，1号地下式横穴墓から人骨一体と軽石製石棺，2号からは粘土床や軽石板とともに副葬品として直刀，鉄刀・刀子・鉄斧などが出土している。

(3)堀木田原地下式横穴墓

宮ノ上地下式横穴墓群の西約1㎞の台地縁辺部に所在し，昭和55年に発見，発掘調査が行われている。地下式横穴墓は，全長5.2mで県内では最大級の規模があり，玄室内に粘土床を有する。副葬品は鞘と思われる木質が残存する直刀，柄の一部を伴う鉄剣，刀子が出土している。

(4)中尾遺跡（中尾地下式横穴墓群）

本遺跡は平成3年度から平成16年度にかけて11度の発掘調査が実施されている。縄文時代早期から古代にかけての複合遺跡である。なかでも古墳時代の成果が注目される遺跡であり，竪穴住居跡や溝状遺構，地下式横穴墓などの遺構が多数確認されている。今回報告するものを除いた調査成果について列挙することとしたい。

平成3年度に町教育委員会主体で調査が行われ，古墳時代のものと思われる竪穴住居跡21基と円形周溝状遺構1基，溝状遺構4条などが検出されている。今回報告する調査区の隣接地であり，周辺には大規模は集落が存在したことを裏付ける発見となった。なお，遺構数については，住居跡が切り合って存在することや本報告の遺構と同一のものが含まれる可能性が高いことから変動する可能性がある。平成8年度には，本事業に伴う調査で地下式横穴墓を2基検出したのをはじめ，個人畑地造成に伴って町教育委員会が実施した調査でも4基確認されている。平成16年度に確認した1基を含め，中尾地下式横穴墓群ではこれまでに7基の存在が把握されたことになる。地下式横穴墓の玄室は平入りで隅丸長方形を呈する。玄室内から1号で2体，2号で1体，5号で1体，6号で3体の人骨が発見されている。副葬品は円頭太刀・鉄刀・鉄鏃・刀子・銅製鈴などが出土している。

このほか，平成16年度の調査では，弥生時代中期後半の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・古墳時代の竪穴住居跡などが検出され，横穴墓から鉄剣・鉄刀が出土している。

（5）池山B遺跡

縄文時代の遺跡で，円筒形を呈し口縁部が直行する塞ノ神式土器が採集されている。このタイプは枕崎市の奥木場遺跡からも出土しているものである。

（6）椿ノ下遺跡

古墳時代の壺形土器が採集されている。底部はやや尖り気味の丸底で胴部がふくらみ，頸部はよくしまり口縁部は外反する器形で，胴部にはすれ違う刻み目突帯が1条めぐり，頸部から肩部と突帯の上下に櫛描波状文がみられるものである。在地性の強い成川式土器に畿内・瀬戸内の影響が考えられる技法がみられる注目すべき発見である。

（7）四方高迫遺跡

昭和59年の大隅地区埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡で，縄文時代後期から晩期の遺

物が確認されている。平成12年に発掘調査が実施され，縄文時代早期の集石や前平式土器・石坂式土器，打製石鏃・打製石斧・磨石・石皿等が発見されている。縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。

（8）名主原遺跡

昭和63年，平成元年，平成13・15・16年度に調査が実施され，弥生時代終末頃の花弁形住居跡をはじめとする竪穴住居跡群が多数検出されている。平成3年度の調査では同心円文や重弧文など幾何学的な沈線文様が施された壺形土器が出土している。

（9）荷掛原遺跡

平成元年および平成3年に調査が実施され，縄文時代早期のものと思われる集石や打製石鏃・磨石・剥片石器類が出土している。

(10) 水流遺跡

平成2年に調査が実施され，縄文早期の集石，前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・山形押型文土器のほか阿高式土器が出土している。

(11) 筒ヶ迫遺跡

平成3年に発掘調査が実施され，縄文時代の組織痕土器や古墳時代，古代の遺物・溝状遺構が発見されている。

(12) 原口岡遺跡

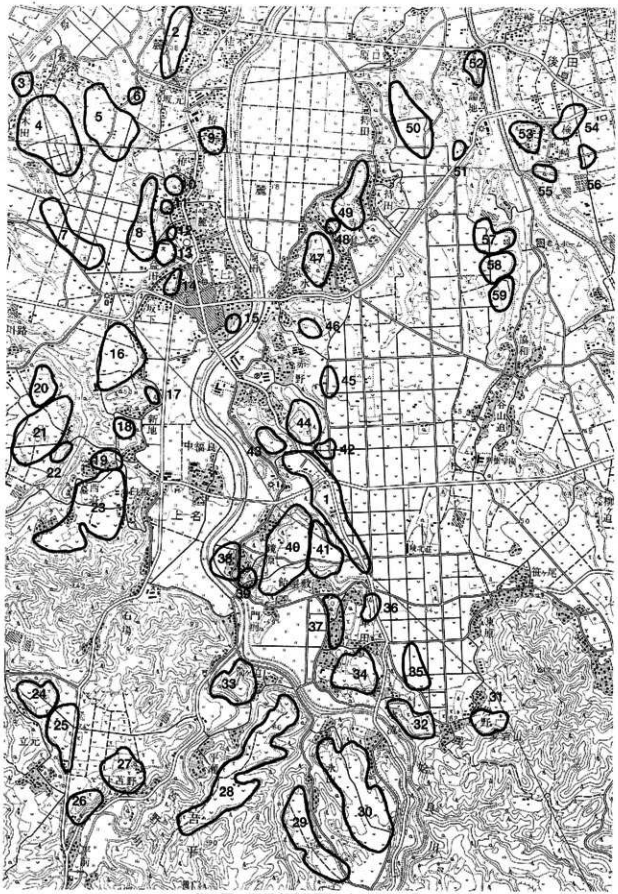
平成6年度に発掘調査が実施され，縄文時代早期の集石6基のほか，前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・石斧・磨製石鏃・石皿・砥石・剥片石器等の遺物が出土している。

(13) 和田遺跡

平成12年度に確認調査，平成14・15年度に本調査が実施され，縄文時代早期の連穴土坑2基，集石28基などの遺構のほか，加栗山式土器・吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・辻タイプ・中原式土器・磨製石鏃・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石皿・砥石などの遺物が出土している。

吾平町内においては，前述した弥生～古墳時代の成果に加え，近年の発掘調査で縄文時代早期の遺構・遺物の発見が相次ぎ，大隅半島における当該期の研究において欠かすことのできない貴重な資料を追加している現状である。

ここに列挙した遺跡を含め，中尾遺跡の周辺に所在する遺跡については，第3・4表のとおりである。



第２図　周辺遺跡位置図（１／25000）

第３表　周辺遺跡地名表（１）

No.	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	中尾	吾平町上名中尾	台地	縄文・弥生・古墳	縄文（早・晩）・弥生土器・成川式土器	本報告
2	名主原	吾平町下名川西名主	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・土師器・須恵器	S63・H１・13・15・16調査
3	船木田	吾平町麓堀木田	低地	弥生（中・後）	磨棒・打製石斧・土器	
4	和泉田原	吾平町麓和泉田原	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・須恵器・土師器	
5	笠原	吾平町麓笠原	台地	弥生	土器	
6	川上	吾平町麓川上	台地	弥生	高坏・壺	
7	廣牧	吾平町麓廣牧	台地	古墳		H５町調査
8	城ヶ迫原	吾平町麓城ヶ迫原	台地	弥生	土器	
9	榕の下	吾平町麓榕下	低地	弥生（中）・古墳	土器（櫛目文あり）	
10	山古城跡	吾平町麓城ヶ迫原城山	丘陵	平安（末）中世（室町末）	上吉平判官と中人数代居住。近世初頭島津氏支配。岡り八町。高さ十間	「給良名勝志」「一園名勝図絵」
11	地頭御仮屋跡	吾平町麓山古城南山麓	低地	平安（末）・中世（室町）・近世	上吉平判官屋館跡。島津の地頭御代以降（天正から）	
12	千手院（坂）	吾平町麓千手院	台地	弥生（後）・奈良・平安	弥生土器・土師器	
13	宮ノ上地下式横穴	吾平町麓宮ノ上吾平小校庭	台地	古墳	地下式横穴・直刀・鉄器	S24・29・46・53・61調査
14	宮ノ前（鹿戸神社脇）	吾平町麓宮ノ前鹿戸神社脇	低地	弥生（中）	弥生壺形土器（完全）	
15	町頭	吾平町麓町頭	低地	弥生（中）	弥生壺形土器（完全）	
16	道脇	吾平町麓道脇	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・土師器・須恵器・青磁	
17	猪塚	吾平町麓猪塚	台地	古墳・奈良・平安	成川式土器・土師器・須恵器	
18	新地上	吾平町上名新地上	台地	縄文（晩）・弥生（前・中）	曽畑式・石匙・弥生土器・石鏃丁	
19	西迫	吾平町上名西迫	台地	弥生（中）	弥生土器・石斧	
20	モタイ坂	吾平町上名モタイ坂	台地	弥生（中）・古墳	弥生土器・打製石斧	
21	前木場A	吾平町上名前木場	台地	古墳・奈良・平安	成川式土器・土師器・須恵器	
22	前木場	吾平町上名前木場	台地	縄文・弥生（中・後）・古墳	弥生土器・須恵器	S63調査
23	白板原	吾平町上名白板原	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・土師器	
24	下小原	吾平町上名下小原	台地	弥生・古墳	弥生土器・土師器	
25	立元	吾平町上名立元	台地	縄文（後）・弥生（前・中）	市来式土器・指宿式土器・磨製石斧・石鏃・弥生土器	
26	苦野原A	吾平町上名苦野原	台地	縄文（後）・弥生（中）	指宿式土器・市来式土器・弥生土器・石器	
27	苦野原B	吾平町上名苦野原	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・土師器	
28	筒ヶ迫	吾平町上名筒ヶ迫原	台地	縄文（晩）・古墳		旧名「筒ヶ迫原」
29	中崎	吾平町上名中崎	台地	古墳		
30	水流	吾平町上名水流	台地	縄文（早）・弥生・古墳	土器	H２調査
31	角野原	吾平町上名角野原	台地	弥生（中）	土器・石斧	
32	四方高迫	吾平町上名四方高迫	台地	縄文・弥生・古墳	曽畑式土器・指宿式土器・磨目土板・弥生土器・成川式土器・土師器・青磁・打製石斧・石皿・磨製石斧・磨石・鉄石	H12調査
33	筒ヶ迫城跡	吾平町上名迫門前	丘陵	中世（室町）	天文天正の頃地頭居住但り十二町。高さ十五間。肝属伊勢守るの城跡という。	「給良名勝志」「三園名勝図絵」
34	渡迫	吾平町上名渡迫（車田）	台地	弥生（前・中）	弥生土器・石斧	
35	角野原A	吾平町上名	台地	縄文（早）・古墳	吉田式土器・成川式土器	H12確認調査

第４表　周辺遺跡地名表（２）

No.	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
36	和田	吾平町上名和田	台地	弥生（中・後）	弥生土器	H12・14・15調査
37	松下城跡	吾平町上名西椎	台地	中世（室町）	笹ヶ迫城跡の前哨陣地としての役割	
38	軍谷下	吾平町上名	低地			H11調査
39	鍋原	吾平町上名鍋原	台地	縄文(中・後)・弥生・古墳	市来式土器・阿高式土器・磨製石斧・弥生上器・成川式土器・上師器	
40	鍋原上	吾平町上名鍋原	台地	弥生（中・後）	弥生土器・石斧	
41	源路尾	吾平町上名源路尾	台地	弥生（中・後）	弥生土器・上師器	H９調査
42	打越	吾平町赤野打越	低地	古墳		H５市町村調査
43	大久保迫	吾平町上名大久保迫	台地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器	
44	塊原	吾平町麓塊原	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・上師器	
45	赤野原	吾平町麓赤野原	台地	弥生（中）	弥生土器・石斧	
46	反田原	吾平町麓反田原	台地	縄文・弥生・奈良・平安	上師器・土器	
47	三角原	吾平町麓三角原	台地	弥生・奈良・平安	土器・土師器・須恵器	
48	寺ヶ迫古墳群	吾平町麓寺ヶ迫	台地	弥生（中）・古墳	円墳９基	
49	藤島原	吾平町麓藤島原	台地	弥生・古墳・奈良・平安	弥生土器・成川式土器・上師器・須恵器	
50	井牟田	吾平町下名井牟田	低地	弥生・古墳	弥生土器・成川式上器	
51	論地原	吾平町下名論地	台地	弥生・古墳	弥生土器・成川式上器	
52	論地原	高山町後田論地原	台地		弥生土器	
53	検検見崎城跡	高山町路田検見崎	台地	中世	肝属氏出城の一・肝属二代の主兼経の弟兼友の居館跡説・惠右尊現存	
54	橋戸	高山町後田		古墳		H12土木分布調査
55	北後田古墳群	高山町後田・稲村	台地	古墳		
56	検見崎	高山町後田検見崎	台地	弥生（後）	円墳の回りに多数に散布	
57	銭亀	高山町後田銭亀	台地	弥生		
58	小牟田上	高山町後田小牟田上	台地	弥生・歴史		
59	柳舞岡	高山町後田柳舞岡	台地	弥生		

〈参考・引用文献〉
「山内原遺跡・大牟礼遺跡・児玉渡遺跡・中原遺跡」 吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書（１） 1985 吾平町教育委員会
「宮ノ上地下式横穴群・松下城遺跡・大牟礼遺跡」 吾平町発掘調査報告書（２） 1987 吾平町教育委員会
「前木場遺跡」 吾平町発掘調査報告書（３） 1988 吾平町教育委員会
「前木場原遺跡・モタイ坂遺跡・薬人寺跡遺跡」 吾平町発掘調査報告書（４） 1989 吾平町教育委員会
「犬神原地下式横穴群」吾平町発掘調査報告書（５） 1989 吾平町教育委員会
「六条原Ａ遺跡」 吾平町発掘調査報告書（６） 1989 吾平町教育委員会
「名主原遺跡・荷掛原遺跡」 吾平町発掘調査報告書（７） 1990 吾平町教育委員会
「水流遺跡・横井坂遺跡」 吾平町発掘調査報告書（８） 1990 吾平町教育委員会
「黒羽子遺跡」 吾平町発掘調査報告書（９） 1991 吾平町教育委員会
「筒ヶ迫遺跡・荷掛原遺跡」 吾平町発掘調査報告書（10） 1992 吾平町教育委員会
「原口岡遺跡」 吾平町発掘調査報告書（11） 1994 吾平町教育委員会
「反田原遺跡」 吾平町発掘調査報告書（12） 1994 吾平町教育委員会
「出水・軍官下遺跡」 吾平町発掘調査報告書（13） 2000 吾平町教育委員会
「中尾地下式横穴群」 吾平町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書（14） 1998 吾平町教育委員会
「和田遺跡」吾平町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書（17） 2004 吾平町教育委員会

第Ⅲ章　発掘調査の概要

第１節　発掘調査の方法

調査は，測量基準として「一般地方道折生野神野吾平線改良施行計画平面図」のセンターラインNo64とNo68の２点を結ぶ線を基軸に，北西から南東方向に１・２・３～，北東から南西方向にA・B・C～とする10m間隔の調査用グリッド（区割り）を設定して実施した。

なお，平成３年から平成７年度の調査では，レベル原点として肝属郡吾平町上名字中尾の町営グラウンドに所在するBM.6（H＝49.459m）と同字中尾6396番地に所在するBM.5（H＝51.887m）を基準として利用した。

平成３年度の調査は，遺跡の範囲や性格を把握するため事業区間の県道拡幅部分，3,600㎡を対象に確認トレンチを18か所設定して行った。その結果，調査区域全体に遺跡が残存することか判明したため，確認調査を本調査に切り替え，継続して調査を実施した。この時点で，現道部分の下位にも遺跡がひろがることが把握されたことから，事業区間の北側から平成５年度に3,000㎡，平成６年度には1,200㎡，平成７年度に1,000㎡を対象に本調査を行った。なお，平成７年度から平成９年度については，さらに南側への遺跡のひろがりを把握するための確認調査を本調査と併行して実施した。

調査の順序としては，伐採等の環境整備を実施した後，重機（バックホー）によって表土・アスファルトなどを除去し，Ⅱ層以下について遺構検出面であるⅣ（池田火山灰）層上面あるいはⅥ（アカホヤ火山灰）層上面まで人力（山鍬・ジョレン等を利用）による掘り下げを行った。出土した遺物（土器・石器など）を記録して取り上げた後，検出した遺構（竪穴住居跡・溝状遺構など）については，それぞれ丁寧に掘り下げを行い（移植ゴテ等を利用），写真撮影や図面作成作業を実施した。その後，Ⅶ（乳茶褐色粘質土）層まで人力によって掘り下げ，再度，遺物の取り上げなどを行い，遺構検出（集石など）・図面作成作業などを実施した。さらに下層確認のため，部分的に下層確認トレンチを設定して掘り下げを行い，遺物包含層の確認に努めた。なお，掘削によって生じた排土は，調査区の幅が狭いために隣接する事業区内の調査終了区間などにベルトコンベアやタイヤショベル，バックホーによって搬出した。その際，調査地と現道との高低差がある場合は，作業上の安全等を考慮して場合によっては法勾配を取りながらの掘削，排土処理を実施した。なお，各年度とも発掘調査終了跡には掘削部分の埋め戻しを行った後，県土木部（鹿屋土木事務所）への調査現場の引き渡しを実施した。

第２節　調査成果の概要

平成３年度から平成７年度にかけての発掘調査の結果，Ⅶ層上面で縄文時代早期の集石を８基検出し，Ⅵ層から吉田式土器・下剥峯式土器・塞ノ神Ａ式土器などの土器，打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨敲石類・石皿などの石器が出土した。Ⅳ層からは，縄文時代晩期の土坑３基のほか，黒川式土器・刻目突帯文土器・組織痕土器などの土器，打製石鏃・磨製石斧・打製石斧などが出土した。このほか，Ⅳ層からⅥ層上面において古墳時代の竪穴住居跡22軒，溝状遺構４条などを検出した。各時代ごとの調査成果の詳細については，第Ⅳ章でふれることとする。

第5表　確認調査の概要一覧

年度	トレンチ番号	トレンチの規模	遺　構	遺　物
H 3	1 T	2 × 4 m	−	有
	2 T	1.2×6.5m	溝状遺構	有
	3 T	2 × 6 m	溝状遺構	有
	4 T	2 × 5 m	−	有
	5 T	2 × 5 m	−	有
	6 T	2 × 5 m	−	有
	7 T	12×1.5m	−	有
	8 T	2 × 8 m	−	有
	9 T	2 × 4 m	−	有
	10T	2 × 4 m	−	有
	11T	2 × 4 m	−	有
	12T	2 × 5 m	−	有
	13T	2 × 6 m	−	有
	14T	2 ×10m	−	有
	15T	2 ×10m	−	有
	16T	2 × 4 m	−	有
	7T	2 × 3 m	−	有
	18T	14×1.5m	−	有
H 6	1 T	2 × 5 m	−	有
	2 T	2 × 5 m	−	有
H 7	1 T	2 × 7 m	竪穴住居跡	縄文時代早期・古墳時代
	2 T	2 × 4 m	溝状遺構	縄文時代早期・古墳時代
	3 T	2 × 3 m	−	縄文時代早期・古墳時代
	4 T	2 × 5 m	−	縄文時代早期
	5 B T	2 × 4 m	溝状遺構	古墳時代
	6 T	2 × 4 m	−	縄文時代早期
H 8	1 T	2 × 4 m	竪穴住居跡	縄文時代早期・古墳時代
	2 T	2 × 4 m	−	縄文時代早期・古墳時代
	3 T	2 × 4 m	−	古墳時代
	4 T	2 × 4 m	地下式横穴墓	古墳時代
	5 T	2 × 4 m	−	古墳時代
H 9	1 T	3 × 4 m	−	弥生時代中期土器
	2 T	3 × 3 m	−	縄文時代早期土器
	3 T	3 × 4 m	−	弥生時代中期土器
	4 T	3 × 4 m	−	縄文時代早期土器

第3節　遺跡の層位

中尾遺跡は，標高約40～55mのシラス台地および姶良川の開析によって形成された河岸段丘縁辺部に立地する。遺跡およびその周辺の現況は，徐々に宅地化が進んではいるものの，ほぼ平坦な畑地帯がひろがっており，地形的には良好な様相を呈している。ただし遺跡が形成されたⅠ層より下位の旧地形においては，台地縁辺部に立地することもあって部分的に起伏が認められ，浅い谷状の地形を形成するなど，現地形から受ける印象とは相違がある。このような旧地形に対し，後世に盛土や削平などの造成が行われたこともあり，地層の堆積や残存状況には地点によって若干の差が認められる。今回報告する中尾遺跡の調査区内における基本的な土層は，M～N－41区の土層を指標とした。基本的な層序については以下の通りである。なお，層厚については調査区全体における数値である。

Ⅰ	Ⅰ　層　灰黒褐色土
Ⅱ	Ⅱ　層　黒褐色土
Ⅲ	Ⅲ　層　暗紫色土
Ⅳa	Ⅳa層　暗黄褐色土
Ⅳb	Ⅳb層　黄褐色土
Ⅴ	Ⅴ　層　黄褐色軽石層
Ⅵa	Ⅵa層　黄橙色火山灰層
Ⅵb	Ⅵb層　黄橙色軽石層
Ⅶ	Ⅶ　層　乳茶褐色粘質土
Ⅷ	Ⅷ　層　黒褐色土
Ⅸ	Ⅸ　層　暗茶褐色粘質土
Ⅹ	Ⅹ　層　黄褐色粘質土

第3図　中尾遺跡基本土層図

Ⅰ層は，表土または旧表土・盛土・耕作土である。層厚約20～200㎝である。

Ⅱ層は，O－14～15区，M－20～25区を中心に調査範囲の一部にわずかに残存する。古代の遺物包含層である。残存部分での層厚は約5～50㎝である。

Ⅲ層は，開聞岳を起源とする噴出物で，通称紫ゴラとよばれる。Ⅳ層中の上位に部分的であるがブロック状に認められ，層厚約4～10㎝である。噴火の年代については西暦874（貞観16）年が有力である。

Ⅳ層は，約5,500年前の池田カルデラを起源とする噴出物で，上位から火山灰層（Ⅳa），火砕流層（Ⅳb）に細分される。基本的にⅣa層は，縄文時代晩期・古墳時代の遺物包含層である。Ⅳ層の層厚は約20～40㎝である。

Ⅴ層は，池田カルデラを起源とする噴出物で池田降下軽石とよばれる。層厚は約20～50㎝である。なお，Ⅴ層下部には部分的に尾下降下スコリアと呼ばれる黒褐色火山礫が認められる。層厚約4㎝程度である。

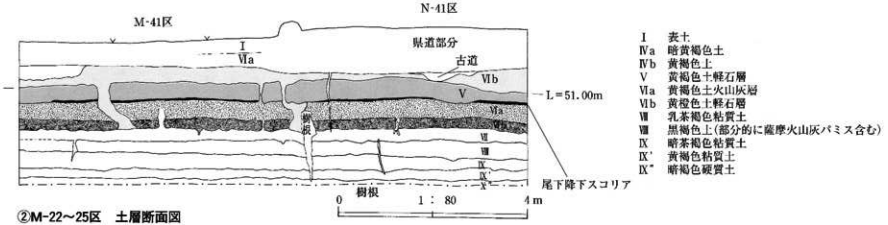
Ⅵ層は，約6,400～6,300年前の鬼界カルデラを起源とする噴出物で，通称アカホヤ火山灰とよばれる。上位から火山灰層（Ⅵa層），軽石層（Ⅵb層）に細分される。Ⅵ層の層厚は約20～60㎝である。

Ⅶ層は，縄文時代早期の遺物包含層でやや硬質である。層厚約20～30㎝である。

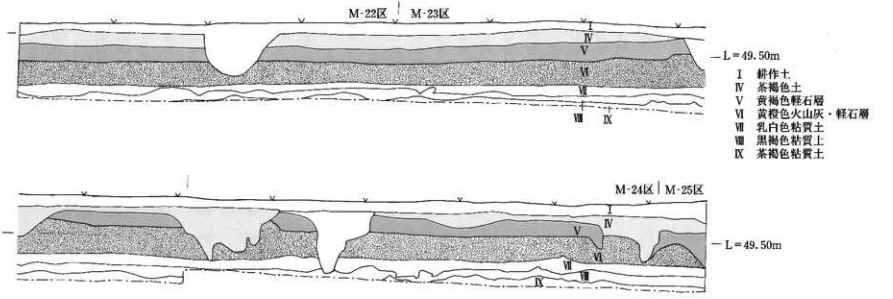
Ⅷ層は，やや硬質で約11,500年前の桜島を起源とする噴出物，通称薩摩火山灰が部分的にパミス状に点在する。層厚約30㎝である。

Ⅸ層は，通称チョコ層とよばれる層に該当すると思われ，やや硬質である。Ⅸ層から遺物の出土は認められていない。

①M・N-41区　土層断面図

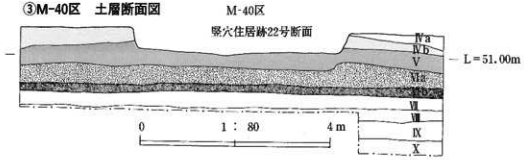


②M-22～25区　土層断面図



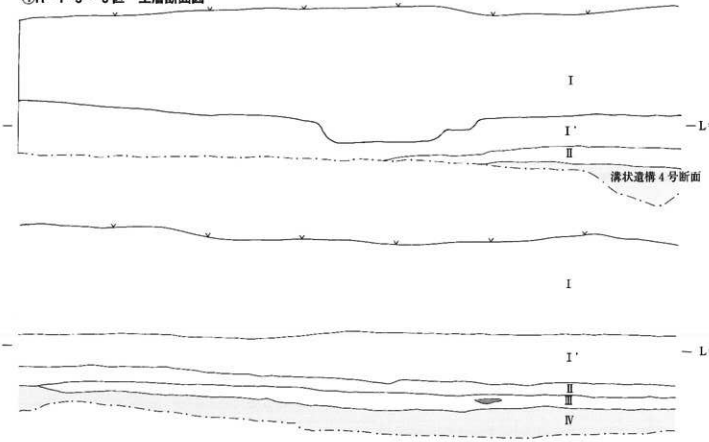
第４図　土層断面図１

③M-40区　土層断面図



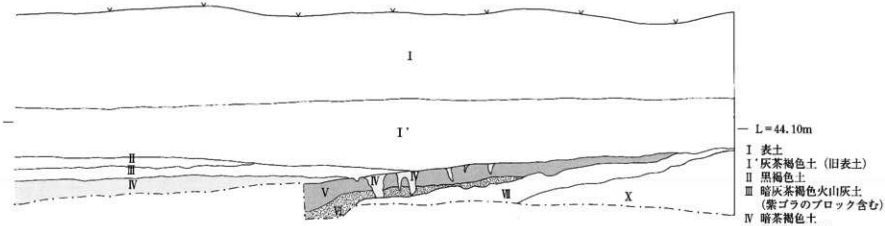
Ⅳa　暗黄褐色土
Ⅳb　黄褐色土
Ⅴ　黄褐色軽石層
Ⅵa　黄褐色火山灰層
Ⅵb　黄橙色軽石層
Ⅶ　乳茶褐色粘質土
Ⅷ　黒褐色土（部分的に薩摩火山灰パミス含む）
Ⅸ　暗褐色粘質土
Ⅸ　白褐色粘質土

④R～T-5～8区　土層断面図

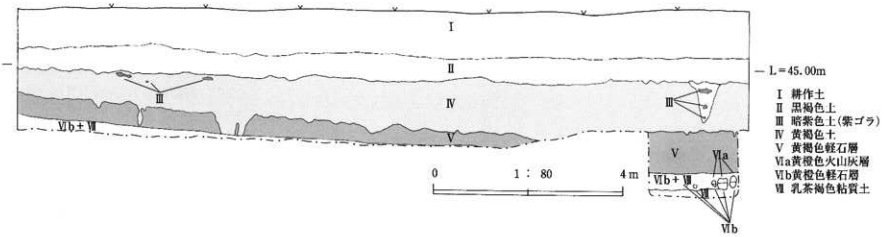


Ⅰ　表土
Ⅰ'　灰茶褐色土（旧表土）
Ⅱ　黒褐色土
Ⅲ　暗灰茶褐色火山灰土
（紫ゴラのブロック含む）
Ⅳ　暗茶褐色土

第5図　土層断面図2

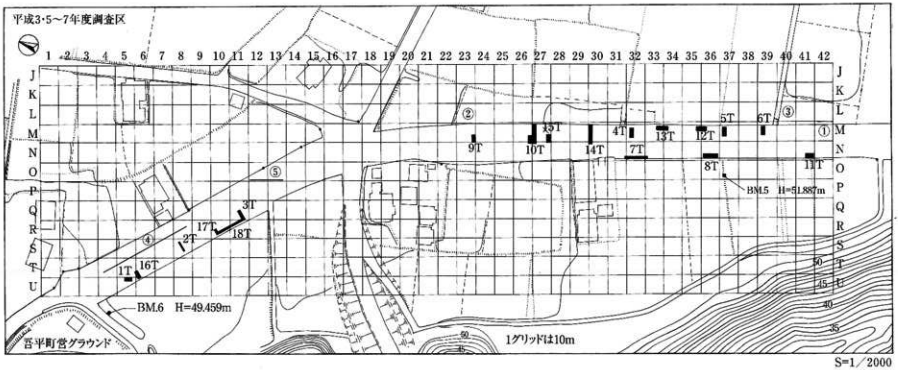


⑤O・P-12・13区　土層断面図

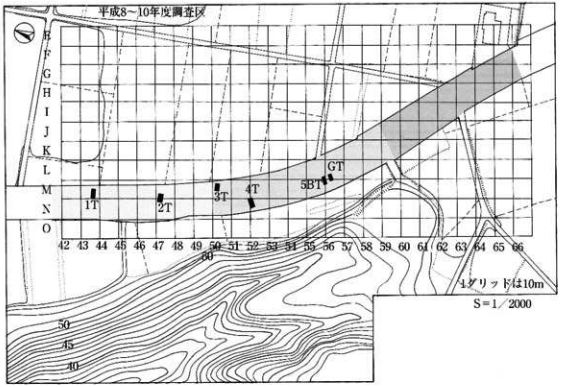


第6図　土層断面図3

第７図　調査区域全体図



第８図　調査グリッド・確認調査トレンチ位置図１



第8図の確認調査トレンチ

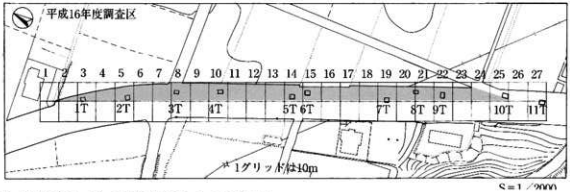
■ 平成3年度に設定したトレンチ（1～18T）

□ 平成6年度に設定したトレンチ（1～2T）

第9図の確認調査トレンチ

■ 平成7年度に設定したトレンチ（1～6T）

□ 平成16年度に設定したトレンチ（1～11T）



第９図　調査グリッド・確認調査トレンチ位置図２

第Ⅳ章　発掘調査の成果

第１節　Ⅶ層の調査（縄文時代早期）

乳茶褐色粘質土のⅦ層からは，縄文時代早期の吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・塞ノ神A式土器などの土器，打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨石・磨敲石・敲石・石皿などの石器が出土した。これらの出土遺物を記録して取り上げた後，黒褐色土のⅧ層上面で遺構検出を実施した結果，縄文早期に属すると思われる集石を計８基検出した。

１　検出遺構（第11図～第15図）

（１）集石１号（第11図）

Ｍ－24区のⅧ層上面で検出されたものである。径５～15cm 程度の輝石安山岩・花崗岩の亜円礫・角礫120個で構成される。集石内部および周辺に掘り込みは確認されていない。

（２）集石２号（第12図）

Ｍ－26区で検出したものである。集石を構成する礫は，1.0×0.85mの範囲に分布しており散在的で集中は弱い。径５～10cm 程度の輝石安山岩の円礫・亜円礫31個で構成される。集石内部およびその周辺に掘り込みや共伴遺物は認められていない。

（３）集石３号（第12図）

Ｎ－24区のⅧ層上面で検出されたものである。風化した輝石安山岩を主体とする円礫33個で構成される。集石内から外面に貝殻条痕を施す土器の胴部片が３点出土したほか（第13図　１～３），炭化物がわずかに認められた。集石に伴う掘り込みは確認されていない。

（４）集石４号（第12図）

Ｍ－25区のⅧ層上面で検出したものである。集石を構成する礫は，0.6×0.33mの範囲に分布する径５～10cm 程度の輝石安山岩の扁平な角礫16個で構成される。集石周辺からは掘り込み，炭化物，共伴遺物は確認されていない。

（５）集石５号（第12図）

Ｎ－26区のⅦｂ層で検出されたものである。集石を構成する礫は0.6×0.33mの範囲に分布する。径５～10cm 前後の円礫３個，角礫13個の計16個で構成される。集石内に掘り込みは検出されていないが炭化物がわずかに認められた。

（６）集石６号（第14図）

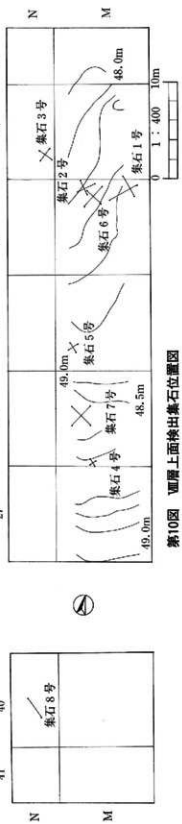
Ｍ－24区のⅧ層上面で検出したものである。径５～10cm 程度の輝石安山岩・花崗岩の角礫21個で構成される。礫は1.05×1.55mの範囲に散らばっておりまとまりは弱い。集石周辺から掘り込み，遺物は認められていない。

（７）集石７号（第14図）

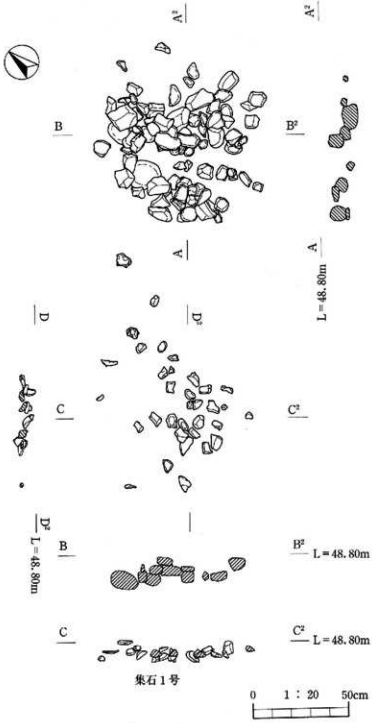
Ｍ－24区のⅦ層上面で検出したものである。輝石安山岩の亜円礫・角礫41個で構成される。集石の内部には掘り込み，遺物とも認められていない。

（８）集石８号（第15図）

Ｍ－40区のⅧ層上面で検出したものである。径５～10cm 前後の角礫・亜円礫26個で構成される。

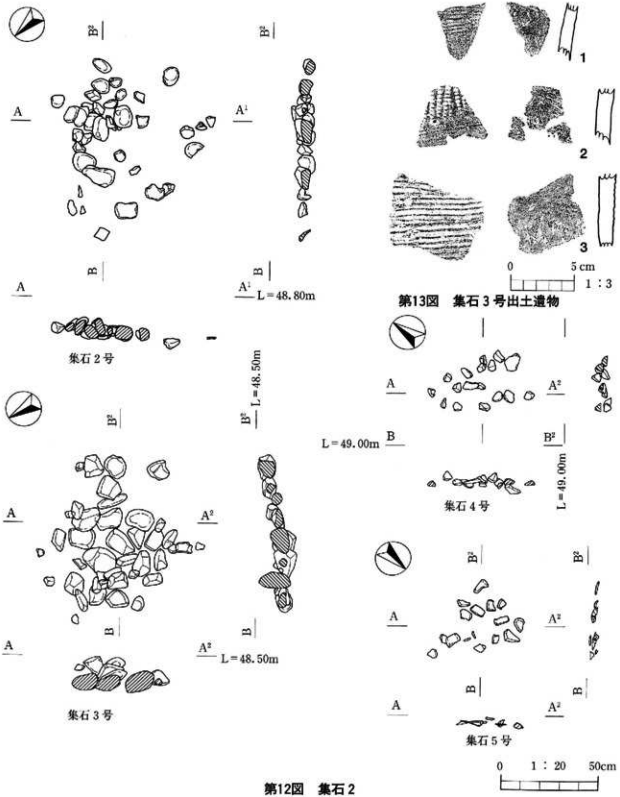


第10図　Ⅷ層上面検出集石位置図



第11図　集石1

礫は2.2×2.2mの範囲に分布しており散在的で集中は弱い。集石内およびその周辺から掘り込み，遺物，炭化物などは確認されていない。

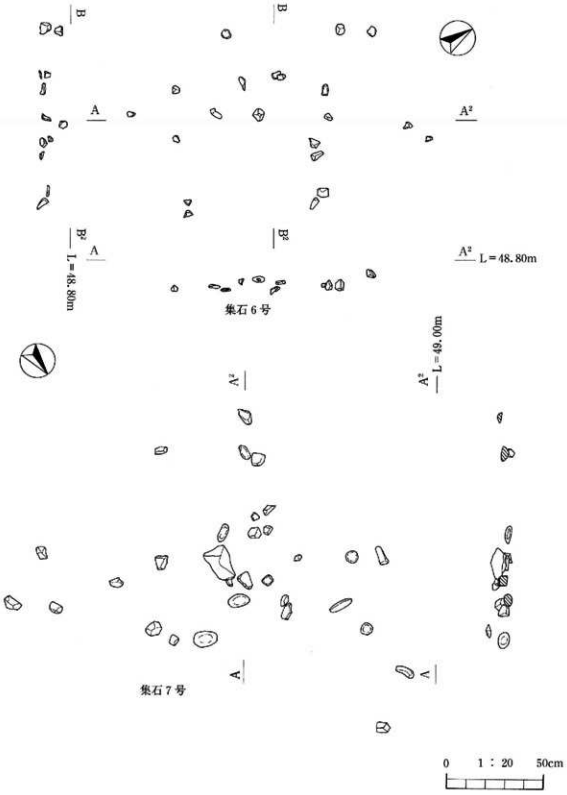


第13図　集石3号出土遺物

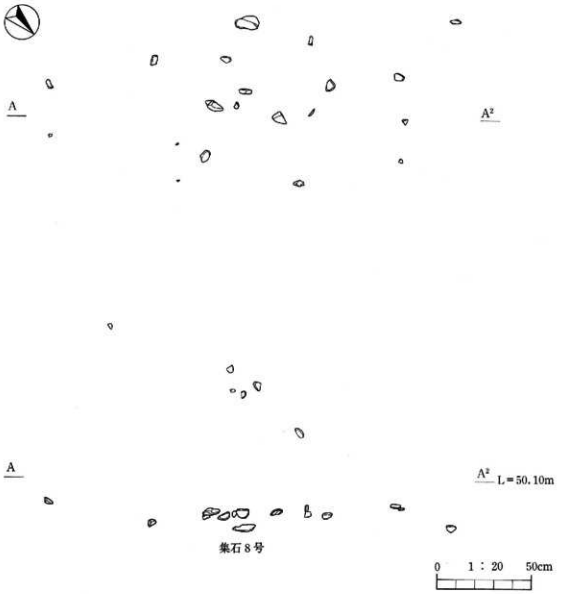
第12図　集石2

第6表　集石3号出土遺物観察表（集石内）

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	造構	文様	色調 内面	色調 外面	胎土
13	1	深鉢	N－24	集石3号	貝殻条痕	黒褐	褐	長石・石英
	2	深鉢	N－24	集石3号	貝殻刺突	明褐	黒褐	長石・石英・黄橙色砂
	3	深鉢	N－24	集石3号	貝殻条痕	褐	暗褐	金色雲母・長石・黄橙色砂


B
B
A
A²
B²
B²
A
A² L=48.80m
B² L=48.80m
集石6号
A²
A² L=49.00m
A
A
集石7号
0 1：20 50cm

第14図　集石3



第15図　集石４

第７表　遺構観察表（集石）

挿図番号	遺構名	検出区	検出面	時　期	長さ (m)	幅 (m)	礫数 (個)	石　材	遺　物
11	集石１号	M－24	第Ⅷ層上面	縄文早期	0.97 1.3	0.92 0.85	85 35	輝石安山岩・花崗岩	－
12	集石２号	M－26	第Ⅷ層上面	縄文早期	2.15	1.70	31	輝石安山岩	－
	集石３号	N－25	第Ⅷ層上面	縄文早期	1.0	0.85	33	輝石安山岩	土器３
	集石４号	M－25	第Ⅷ層上面	縄文早期	0.5	0.43	16	輝石安山岩	－
	集石５号	N-26・27	第Ⅷ層上面	縄文早期	0.6	0.33	16	輝石安山岩	－
14	集石６号	M－24	第Ⅷ層上面	縄文早期	1.55	1.05	21	輝石安山岩	－
	集石７号	M－24	第Ⅷ層上面	縄文早期	0.9	0.9	41	輝石安山岩	－
15	集石８号	M－40	第Ⅷ層上面	縄文早期	2.2	2.3	27	輝石安山岩	－

2　出土遺物

縄文時代早期の遺物包含層である乳茶褐色土のⅦ層から出土した遺物は，縄文時代早期前半から後半期にかけての土器，あるいはこれらの土器に共伴すると思われる石器である。

当該層はやや硬質で粘性があり，発掘時には掘り上げた土が遺物に付着し，取り上げが困難な状況があった。

（1）土　器

土器は，縄文時代早期前半から早期後半のもので，これらを図化するにあたり，主にそれぞれの口縁部や胴部の文様などの特徴をふまえてⅠ～ⅩⅠ類に分類した。

各類をこれまでの土器型式にあてはめると，おおよそⅠ類土器が椿ノ原６類土器の一部あるいは小牧３Ａ遺跡の第Ⅱ類土器，Ⅱ類土器～Ⅶ類土器が吉田式土器，Ⅷ類土器が石坂式土器，Ⅸ類が下剥峯式土器，Ⅹ類が塞ノ神Ａ式土器，ⅩⅠ類が条痕文土器あるいは石京西式土器に該当する。

Ⅰ類は，口縁部が緩やかに外傾する円筒土器を基本とし，底部は平底となる器形である。文様は，椿ノ原６類あるいは小牧３Ａ第Ⅱ類土器では，口唇部に刻みが施されるが，本遺跡から出土した資料は無文である。胴部には貝殻復縁部による横位の刺突文が施されるものと思われ，底部端には縦位の連続刺突文や沈線がめぐらされる。調整は内面に丁寧なナデ整形がみられる。

Ⅱ～Ⅶ類土器は，これまでおおむね吉田式土器と呼ばれているもので，本遺跡で最も多く出土した一群である。器形は，口縁部が緩やかに外傾する円筒形土器を基本とする。底部は平底となる。

主として口縁部の文様から５類に分類したが，胴部には基本的に横位の施文（条痕文や押し引き文あるいはこれらの組み合わせ）が行われていることが共通した特徴である。

これらの吉田式土器のほとんどの口唇部には連続した刻みが施される。口縁部直下には多くの場合，横位の貝殻刺突文が２～３段条施される。さらにその下位にはクサビ形貼付文の変形したもの，あるいはその名残として表現されたと思われる縦位の貝殻刺突文が施されるもの，横位の貝殻刺突文のみが施されるものなどがある。横位の貝殻刺突文を施すタイプには１段，4段のものもみられるがその多くは２～３段のものである。胴部には貝殻復縁部による押し引き文または条痕文が施されている。押し引き文は横位に施されているが，器面上に施文する際の力の入れ具合から文様としては結果的に強弱がつけられているもの，押し引き文と貝殻条痕文と組み合わせてアクセントをつけたものも認められる。また，底部の立ち上がり部分には基本的に縦位の沈線が施され，整形としては内面に丁寧なナデが認められる。

Ⅱ類～Ⅶ類とした吉田式土器を区別する大きなポイントはクサビ形の貼付文状の文様にある。クサビ形貼付文がくずれ，貝殻復縁部によって貼付文に変わるクサビ形の貼付文状の刺突文を施すⅡ類土器，貝殻復縁部による縦位の刺突文が施されるⅢ類土器，爪形文が施されるⅣ類土器，口縁部に横位の貝殻刺突文を２段施した後，その間に斜位の貝殻刺突文を施すⅤ類土器，半裁竹管状の施文具による「Ｃ」字状の文様が施されたⅥ類土器というように，吉田式土器の口縁部文様帯の変遷を考える上で貴重な資料が得られた。

Ⅶ類土器は，クサビ形貼付文の名残はほとんどみられず，口縁部文様としては横位の貝殻刺突文が２～５段めぐるのみとなる。

Ⅷ類土器は，小片が多く全形を知り得る資料がないが胴部に縦位や横位の貝殻条痕文が施されるものである。

Ⅸ類土器は，口縁部が緩やかに内傾し，底部は平底である。口縁部には，貝殻背面による押圧文を施し，胴部から底部にかけて貝殻刺突文で飾るもので下剥峯式土器の範疇に含まれるとよばれているものである。器形，文様などから桑ノ丸式土器との近似性を感じさせる。

Ⅹ類土器は，一般的にほぼ直行する胴部にラッパ状にひらく口縁部をもつものである。口縁部内面に明瞭な稜をもつ。文様は，沈線によって幾何学的な区画文を施し，区画文内に撚糸文を施す。調整は，内面に丁寧なナデ整形がみられる。

ⅩⅠ類土器は，小片のため全体像を知り得ないが，これまでの土器形式でいう小山タイプ・右京西式・条痕文土器とよばれているタイプである。

①Ⅰ類土器（第16図　4～7）

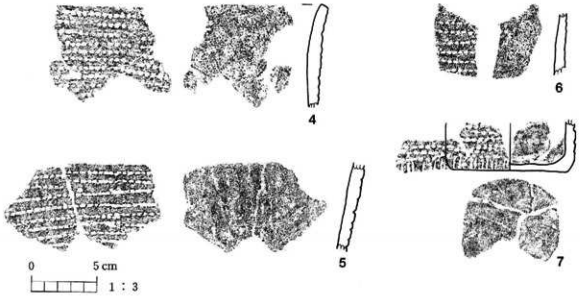
Ⅰ類土器は胴部に横位の貝殻刺突文を施す一群である。

4は口縁部片で，口唇部は無文である。5・6は胴部片である。いずれも外器面には，貝殻復縁部による横位の刺突文が連続して施される。7は底部片で，底部からの立ち上がりに3ｃｍ弱の縦位の刻みを連続して密に施している。

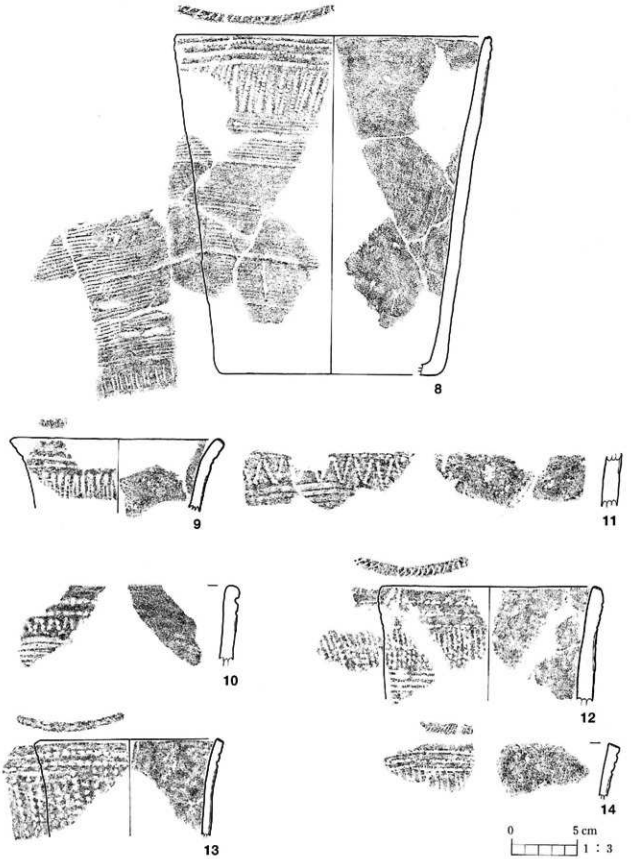
②Ⅱ類土器（第17図　8～11）

Ⅱ類土器は，クサビ形貼付文の形がくずれ，貝殻復縁部によってクサビ形状の貝殻刺突文が連続して施されるものである。

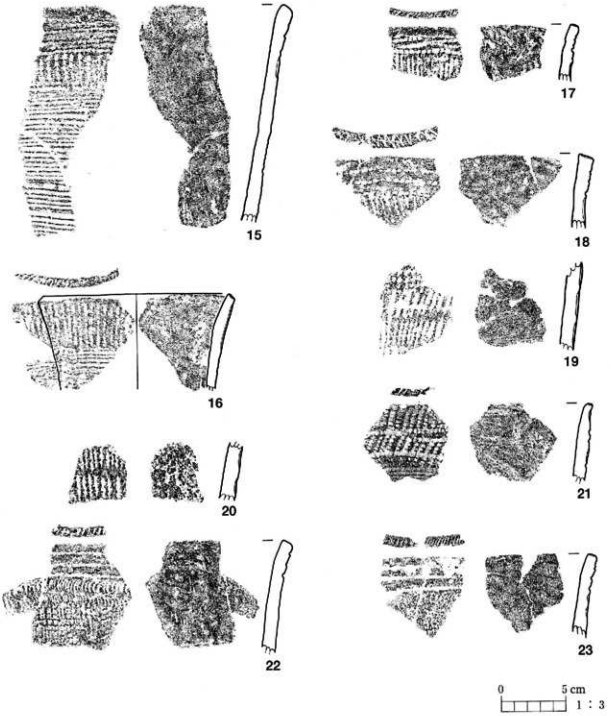
8は完形品で復元口径24.8cm，底径15cm，器高27.2cmを測る。12は復元口径15.8cm，15は復元口径14.7cmを測る。9のクサビ形状の貝殻刺突文は密に施されているが，10・11の刺突文は「V」字



第16図　Ⅶ層出土土器1（Ⅰ類）



第17図　Ⅶ層出土土器２（Ⅱ・Ⅲ類）



第18図　Ⅶ層出土土器３（Ⅲ・Ⅳ類）

形にひらいており，かなりクサビ形を意識した施文であることが読みとれる。10は口唇部が無文で，口縁部のクサビ形状の刺突文は短く施されている。

③Ⅲ類土器（第17図　12～14・第18図　15～21）

Ⅲ類土器は，口縁部に横位の貝殻刺突文が３段施され，その下位に，クサビ形の貝殻刺突文がく

ずれ，貝殻復縁部による縦位の密な刺突文が連続して施されるものである。15・16のように胴部文様は貝殻条痕文である。16は口縁部に横位の貝殻刺突文が施されないものである。

④Ⅳ類土器（第18図　22～23）

Ⅳ類土器は，口縁部下の文様帯に横位の貝殻刺突文を３段施し，その直下に爪形文を施すタイプである。22は，爪形文の方向が１段目が「C」字状，2段目は逆「C」字状に施されている。

⑤Ⅴ類土器（第19図　24～26）

Ⅴ類土器は，口縁部に横位に２段の貝殻刺突文を施し，その間に斜位の貝殻刺突文を施すタイプである。胴部文様は貝殻条痕文である。24は口唇部のキザミ目がないものである。復元口径21.5cm，を測る。

⑥Ⅵ類土器（第19図　27～33）

Ⅵ類土器は，口縁部下の文様帯に半裁竹管状の施文具による「C」字状の刺突文が施されているタイプである。27は復元口径が15.3cm，28が12.9cmを測る。28は口唇部直下に「C」字状の刺突文が少なくとも３段施されている。31は口唇部直下に横位の貝殻刺突文がみられないものである。

32は口縁部上位と下位に横位の貝殻刺突文が２段ずつ施され，その間に貝殻の肋と思われる施文具で刺突文が施されれるものである。胴部には条痕文あるいは押し引き文が施された後，ナデによる調整が行われている。

⑦Ⅶ類土器（第20図　34～41・第21図　42～54）

Ⅶ類土器は，クサビ形状の貝殻刺突文が消え，口縁部に横位の貝殻刺突文が３段，胴部には貝殻復縁部による押し引き文あるいは条痕文の組み合わせによって文様が構成されている一群である。

34は復元口径19．5cm，器高21.6cm，底径15.4cmを測る。底部からの立ち上がりに連続して施される沈線は底部の接地面付近にみられる。35は復元口径24.3cm，36は18.9cm，39は16cmを測る。

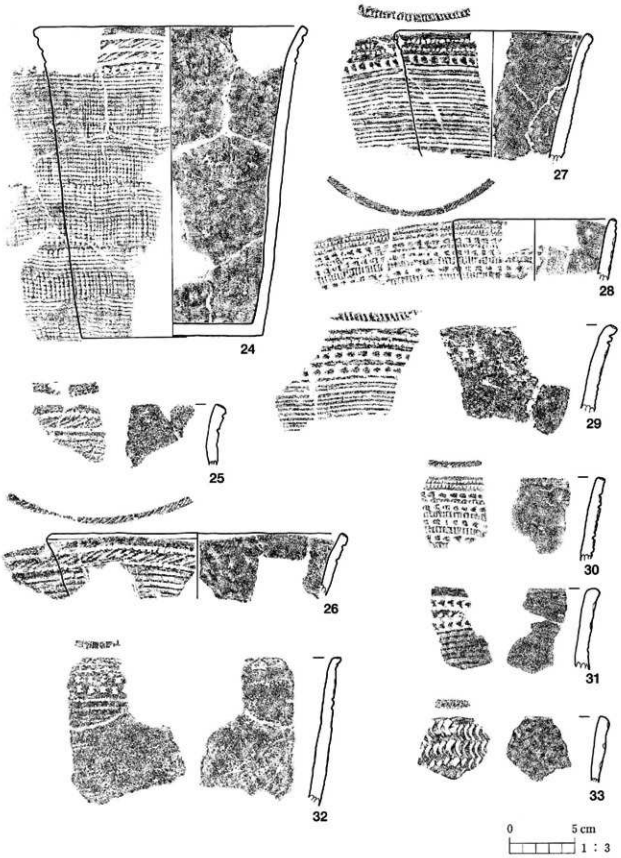
41は口縁部に横位の貝殻刺突文がなく，器面全体に押し引き文だけが施されるものと思われる。口唇部は丸みを帯び無文である。35・39・41は口縁部端が丸みを帯びる。

⑧胴部・底部（第22図　55～67・第23図　68・70～77）

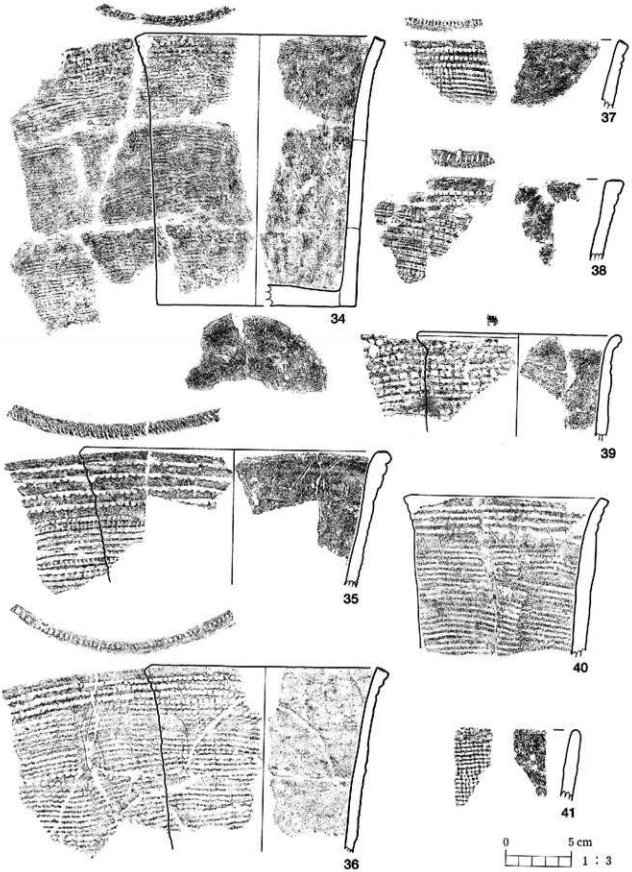
Ⅱ～Ⅶ類の胴部や底部と思われるものである。55・57・58・61は胴部外面に貝殻復縁部による押し引き文，56・59～61は押し引き文と条痕文が組み合わされているものである。62～67横位の貝殻条痕文が施される。底部は68・70・71・73～76の底部は立ち上がり付近に縦位の刻み目が施され，72・77は刻み目がみられないものである。

⑨Ⅷ類土器（第23図　69・第24図　81・85）

Ⅷ類土器は，胴部に縦位や底部付近の胴部に横位の貝殻条痕文が施されるものである。

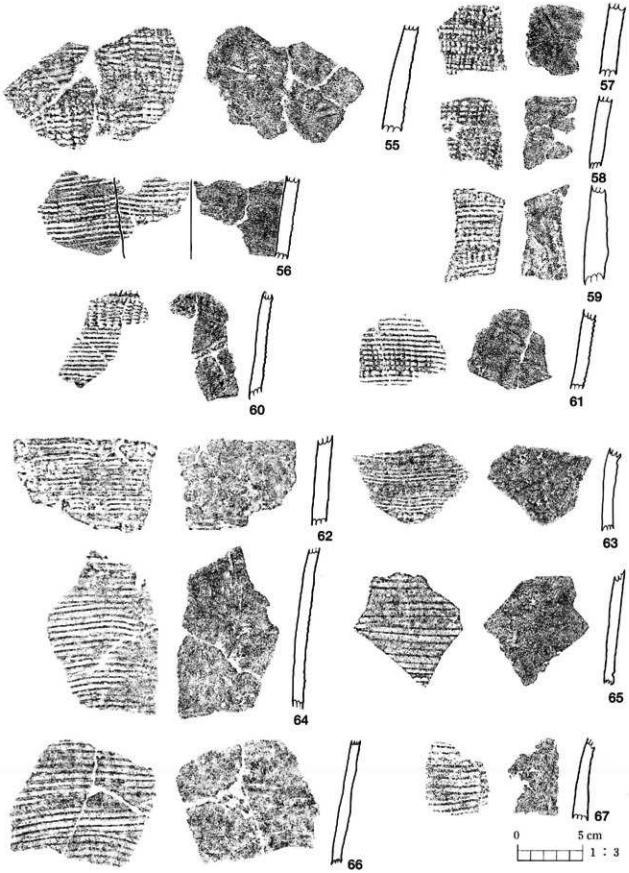


第19図　Ⅶ層出土土器４（Ⅴ・Ⅵ類）

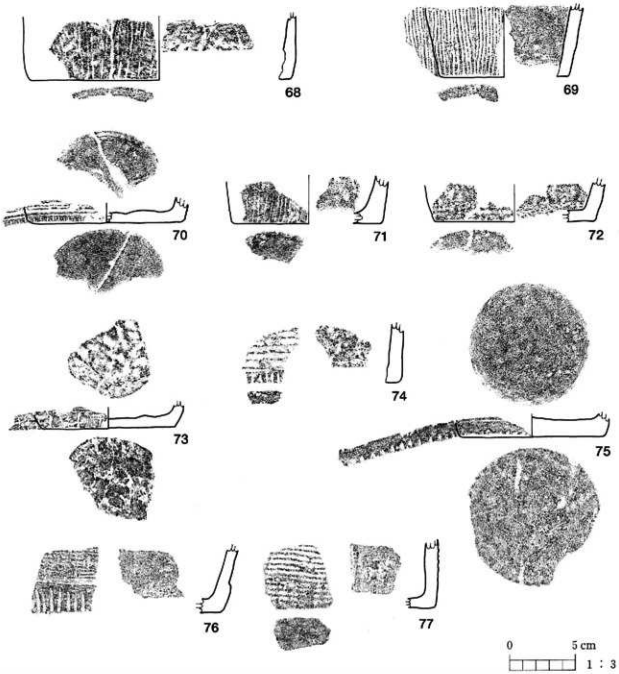


第20図　Ⅶ層出土土器５（Ⅶ類）

第21図　Ⅶ層出土土器6（Ⅶ類）



第22図　Ⅶ層出土土器７（胴部）



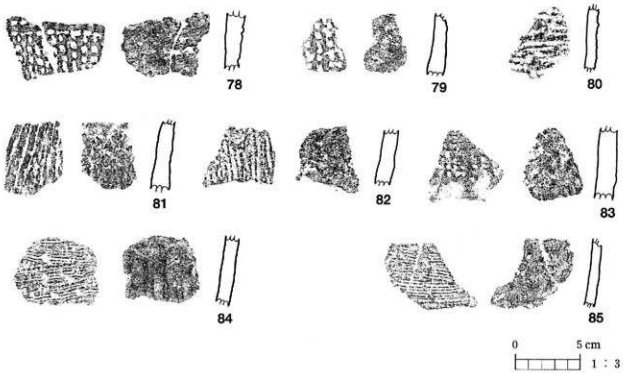
第23図　Ⅶ層出土土器８（底部）

⑩Ⅸ類土器（第25図　86～88）

Ⅸ類土器は，胴部に貝殻復縁部による貝殻刺突文が施されるもので，下剥峯式土器とよばれているものに該当する。

86は復元口径25.3ｃｍ，器高29.9ｃｍを測る。口縁部が内傾し，口唇部は平坦となる。口縁部に貝殻背面で押圧文が施され，口縁部以下の胴部には貝殻復縁部による鋸歯状の刺突文が連続して施される。

87は口縁部で口唇部は無文で端部は丸くおさまる。器面に縦位の貝殻刺突文が施される。88は胴



第24図　Ⅶ層出土土器 9

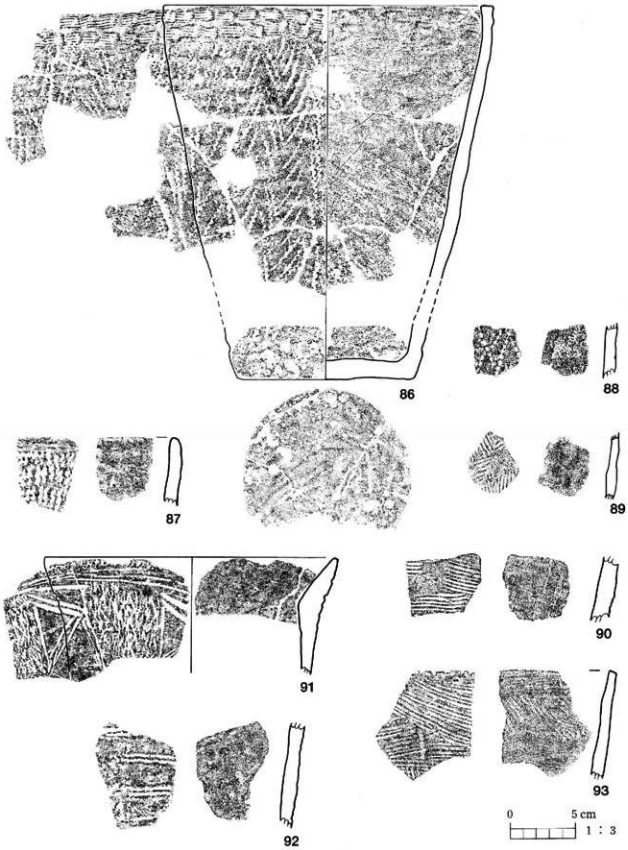
部片で貝殻刺突文がみられる。

⑪Ⅹ類土器（第25図　91～92）

91は口縁部が緩やかに外反し，肥厚する口縁部内側には明瞭な稜を形成する。口唇部付近に刻み目が施され，胴部には沈線によって区画文が描かれる，区画文内に撚糸文が施される。寄ノ神Ａ式土器とよばれるものである。

⑫Ⅺ類土器（第25図　93）

Ⅺ類土器は，口縁部がやや外に開く器形で口唇部端は外傾する。胴部に条痕文が施されるものである。



第25図　Ⅶ層出土土器10（Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類）

（2）石 器

本遺跡から出土した石器は，打製石鏃・磨製石器・石匙・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨石・磨敲石・敲石・石皿などがある。いずれも縄文時代早期の遺物包含層であるⅦ（乳茶褐色土）層から出土したものである。調査面積や土器の出土量に対して当該期の剥片石器類の出土量は少ない傾向が認められる。なお，平成９年度の調査区では打製石鏃をはじめとする多くの剥片石器が出土している。

①打製石鏃（第26図　94）

94は黒曜石製の打製石鏃である。頭部，脚部など全体の半分ほどを欠くが，残存部から推定すると基部に抉りをもつ凹基鏃であると思われる。

②磨製石器（第26図　95）

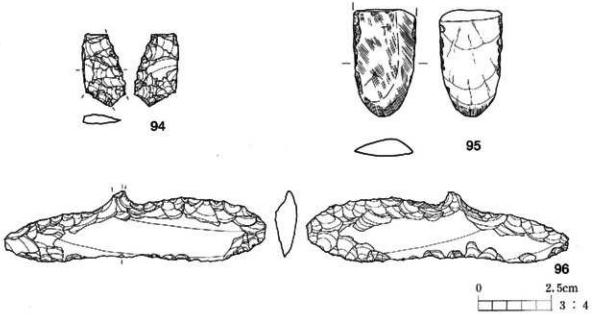
95は磨製石器として分類した。頁岩製で，同様の石材は磨製石斧・打製石斧に多用されている。表面には全体的に擦痕が顕著に観察されるほか，裏面の先端部にも擦痕が認められる。両側縁は両面とも微細な剥離痕が観察できる。基部を欠損する。

③石匙（第26図　96）

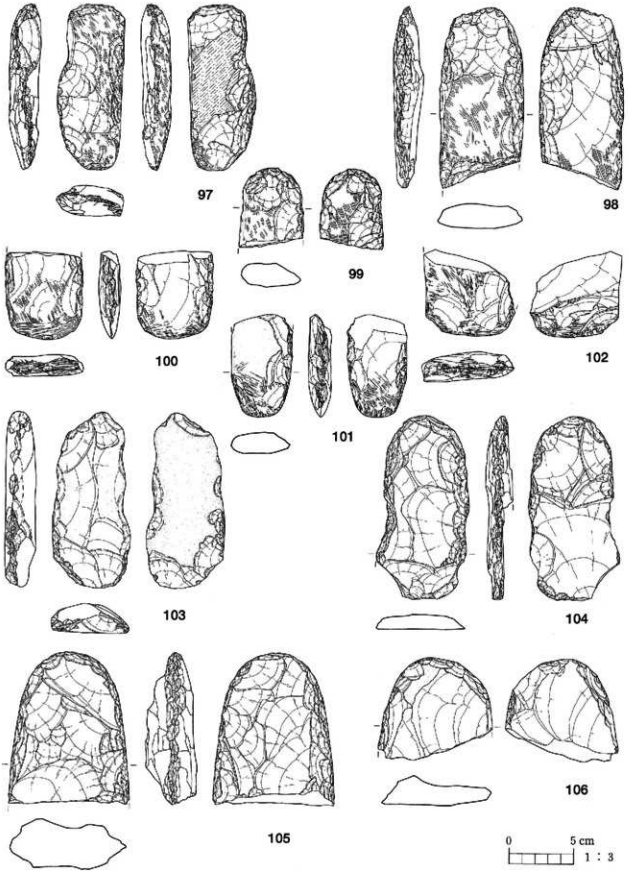
96は，安山岩(サヌカイト)製の石匙である。横長の剥片を素材として利用しており，最大長9.0ｃｍを測る。つまみ部を欠損する。

④磨製石斧（第27図　97～102）

磨製石斧は，6点を図化し掲載した。これらは刃部や側面など一部を研磨した局部磨製石斧である。石材はいずれも頁岩を利用している。97は刃部を丁寧に研磨している。98は横長の剥片を利用したもので，刃部は欠損している。表裏面および側面の一部に研磨痕が観察できる。98～99は基部～胴部，100～102は刃部片である。



第26図　Ⅶ層出土石器１



第27図　Ⅶ層出土石器 2